



始



1424
25/

大正四年度

業務功程報告書 第八回

島根縣種畜場

14.21-25/



業務功程報告書(第八回)目次

第一章 總說

- 一、沿革.....一
- 一、本場ノ事業.....一
- 一、位置.....二
- 一、土地面積.....二
- 一、建築物.....三
- 一、場員ノ現在.....四
- 一、職員ノ異動.....四
- 一、畜産講習講話.....五
- 一、場員ノ出張.....六
- 一、參觀人.....七
- 一、事務取扱件數.....七
- 一、牧農夫ノ獎勵法.....八
- 第二章 家畜ニ關スル事項.....八
- 第一畜牛.....八
- (一) 畜牛現在表.....八
- (二) 畜牛ノ異動.....九

大正
5.12.14
内交

(三)	畜牛飼料表	一〇
(四)	犢ノ生産	一三
(五)	貸與種牡牛一覽表	一三
(六)	貸與種牡牛成績表	一四
第二章		
(一)	馬匹一覽表	一五
(二)	貸與種牡馬種付成績	一五
(三)	貸與種牡馬ノ種付ニ對スル生産調	一六
第三章		
(一)	豚現在表	一六
(二)	豚飼料	一七
(三)	本年度内豚生産表	一八
(四)	豚拂下	一八
第三章 家禽ニ關スル事項		
(一)	家禽現在一覽表	一九
(二)	家禽飼料	二〇
(三)	大正四年度家禽産卵調	二四
(四)	産卵重量調	二五
(五)	種禽(種雛)及種卵拂下表	二六

(六)	飼料價額異動表	二八
第四章 農事ニ關スル事項		
(一)	禾本科牧草之部	三一
(二)	荳科牧草之部	三一
(三)	混播牧草之部	三二
(四)	燕麥之部	三四
(五)	大豆之部	三五
(六)	玉蜀黍之部	三七
(七)	根菜之部	三九
(八)	葉菜之部	三九
(九)	牧草種子之部	四二
第五章 試験ニ關スル事項		
(一)	生草貯蔵試験成績	四三
(二)	製乳試験	五〇
(三)	製乳搾乳試験及幼駒育成並ニ犢發育験試	五一
(四)	豚ノ肥育、加工試験	五八
(五)	養鶏ニ關スル試験	七一
(六)	厩肥調製試験	九二
(七)	路傍牧草收穫試験	九三



業務功程報告書

第八回

第一章 總 說

一、沿革 本場ハ明治四十年四月ノ創設ニシテ元縣立農事試驗場ノ土地建築物ノ引繼ヲ受ケ元畜産巡
 回教師附屬種畜飼養場ノ家畜建造物並ニ縣立農林學校ノ鶏舎ヲ移轉シ事業ヲ開始セリ本場創設ノ
 當時恰モ 今上陛下東宮ニキマシシ時山陰行啓ノ盛事アリ特ニ侍從武官ヲ御使トシテ當場ニ差
 遣セラレタルハ本場開場劈頭ノ記念トシテ特筆大書スヘキ所ナリトス

一、本場ノ事業ヲ略示セハ左ノ如シ



事 業

種牛蕃殖	飼育	配布	種付
種馬育成	配布		
種豚蕃殖	飼育	配布	種付
家禽蕃殖	飼育	種雛	種卵
牧草栽培	種子	配布	
畜産講話			
畜産講習			
畜産技術傳習生養成			

主管事業

試驗事業	
家畜飼養試驗	肉牛肥養試驗 乳牛ニ關スル試驗 豚肥養試驗 家禽飼養試驗 飼料ノ經濟的試驗 特異飼料試驗
牧草試驗	播種收穫試驗 收野草貯藏試驗 種類ノ適否試驗 家畜ノ改良上種類適否試驗
家畜蕃殖試驗	交叉蕃殖試驗 牛酪製造試驗 煉乳製造試驗 煉乳其他試驗
酪農製肉試驗	

一、位置 本場ハ八東郡乃木村大字福富ニ在リ縣廳チ距ル約一里松江市ノ南西安道湖畔ニ瀕シ縣立農林學校ニ隣接ス而シテ山陰線松江停車場及湯町停車場ノ中間ニ位置ス

一、土地面積 四町七反四畝貳步參合(借入地ヲ含ム)其內譯左表ノ如シ

用地內譯表

一、建築敷地 一反二十七步七合五勺

一、收草及蔬菜地 二町七反壹畝二十二步三合(內借入地三反壹畝十四步七合)

一、周圍井手敷地 一反四畝九步

一、家畜運動場 九畝九步九合(內借入地五畝五步)

一、豚運動場 十九步五合

一、家禽舍內運動場 六畝十一步

一、農林學校運動場 六反步

一、同桑園 五反三畝步

一、道路其他 四反七畝二十二步八合五均

計四町七反四畝貳步參合

一、建設物 場內建設物左表ノ如シ

建設物表

種別	棟數	坪數	種別	棟數	坪數
事務所	四	一〇九、〇	豚舍	一	四、五
家畜飼料調理室	一	四、〇	豚舍	一	九、五
釜場及調理室	一	三三、五	收穫舍	一	二、七、五
雞舍	一	一五、〇	衡器舍	一	二、〇
堆肥舍	一	一六、五	製肉室	一	一、〇、五
育雛室	一	九、五	製乳室	一	一、〇、〇
倉庫	一	一五、〇	煙室	一	一、〇、〇

本表中製肉室、燻烟室及製乳室ハ、縣立農林學校ノ保管ニ係ルモノトス

一、場員 現在

場長、技師、島根縣技師、島根縣農業技師

兼技師、縣立農林學校教諭

兼技師、縣立農林學校畜產技術教諭

兼技師、島根縣技師、縣立農林學校教諭

兼技師、兼縣立農林學校畜產技術教諭

兼技師、兼縣立農林學校畜產技術教諭

兼技師、兼縣立農林學校畜產技術教諭

兼技師、兼縣立農林學校畜產技術教諭

木 暮 琛 吉
門 脇 亮 暢
桑 垣 榮
藤 原 儀 一 郎
永 田 二 郎
藤 原 儀 一 郎

明治四十二年ヨリ大正五年三月ニ至ル職員ノ異動左ノ如シ

官 職	氏 名	事 由
技 師	田 野 千 剛	明治四十年四月種畜場技師兼任
全 全	棚 橋 昇	全 四十二年四月三重縣技師ニ轉任
全 全	門 脇 亮	全 四十二年五月種畜場技師ニ任セラル
全 全	坂 脇 亮	全 四十二年三月依願本職ヲ免セラル
技 師	高 橋 博 名	全 四十二年五月種畜場技師ニ兼任
全 全	永 田 二 郎	全 四十二年八月種畜場技師ニ任セラル
全 全	藤 原 儀 一 郎	全 四十二年一月依願本職ヲ免セラル
技 師	永 田 二 郎	明治四十四年三月種畜場書記ニ任セラル
全 全	永 田 二 郎	全 四十四年十月依願本職ヲ免セラル
全 全	永 田 二 郎	全 四十四年十月種畜場書記ニ任セラル
全 全	永 田 二 郎	全 四十五年四月依願本職ヲ免セラル
全 全	永 田 二 郎	全 四十五年四月種畜場書記ニ任セラル
技 師	永 田 二 郎	大正二年三月種畜場技師ニ任セラル

場長技師 木 暮 琛 吉
技 師 桑 垣 榮

大正三年三月農業技師ニ任セラル種畜場長兼任
大正四年一月三十一日種畜場技師ニ任セラル

自大正二年度至大正五年度經費

科 目	大正二年度 額度	大正三年度 額度	大正四年度 額度	大正五年度 額度
種畜場費	九,九四九.〇〇	七,五八七.九一	八,一〇六.三七	八,一八五.〇〇
俸給	一八,九九九.六〇	九,四八〇.〇〇	九,四八〇.〇〇	九,四八〇.〇〇
雜給	二,五七一.〇五	一,八九三.六八	一,八九三.六八	一,八九三.六八
修繕費	四,八七三.四五	四,五〇九.三〇	五,〇八九.六七	五,九二〇.〇〇
其他	五,九五〇.〇〇	三,七〇〇.〇〇	三,七〇〇.〇〇	三,七〇〇.〇〇
計	三〇,七四二.六〇	二六,六六〇.九一	二八,〇六九.七二	三〇,八七九.六八

畜産講習講話

本年度ニ於テ各郡ニ開催ノ畜産講習會並ニ畜産講話會ハ、講師トシテ出張シタルモノノ講習會六ヶ所講習生五百四十名、講話十五ヶ所聴講者二千三百十名ナリ

講習會開催地及日數人員ヲ掲クレハ左ノ如シ

郡 名	能 義 邑 智 那 賀 計
人 日 個	員 數 所
八〇 四 一	一 五 〇 三 一
三 一 〇 四	二 〇 四
五 四 〇	二 七 六

開場以來本年度ニ至ル講習人員ヲ掲クレハ左ノ如シ

年度別	自明治四十年度 至全四十三年度	明治四十四年度	大正元年度	全二年度	全三年度	全四年度	計
人員	五一四	四一三	七六一	五五一	二二一	五四〇	二、九九〇

備考 明治四十年度五十五人全四十一年度二百六人全四十二年度百一人全四十三年度百五十二人ナリ

講話開催地及出席人員ヲ掲クレハ左ノ如シ

郡	名	八	東	能	義	飯	石	兼	川	選	摩	計
個人	所	員	數	數	數	數	數	數	數	數	數	數
七二〇	四四	一八〇	二二	一四〇	四二	二五〇	二二	一、〇三〇	五五	二、三一〇	一七	一五

大正四年度中場員ノ出張

本年度場員出張用名回数日數左表ノ如シ

區別	用	名	回	數	日	數
管内	畜産講習會講師			一	八	三六
	畜産講話會全			一	〇	一九
	畜産視察			一	六	二五
	畜産共進會審査			一	一	二四
	病牛診斷			一	一	一一
	講習會聽講			一	一	一一
	候補種牡牛選定			一	一	一一
	共進會出陳牛豫選			一	一	一一
	馬車用務			一	七	二二
	外管	畜産視察			一	三
合計	中國六縣聯合畜牛馬匹共進會視察			五	五	二〇六

參觀人

大正四年度中參觀人ヲ月別ニスレハ左表ノ如シ

月別	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	總計
人員	三七三	五七九	一九六	二四〇	二二六	一三三	一三六	二六四	三六	三三六	六四	二八四	三、九四〇

明治四十三年度以來ノ參觀人ヲ年度別ニスレハ左表ノ如シ

年度別	明治四十三年度	全四十四年度	大正元年度	全二年度	全三年度	全四年度
人員	二、八四六	五、三三九	三、一三八	四、一一〇	三、八八一	三、九四四

事務取扱件數表

大正四年度中取扱タル事務件數ハ三千百四十五件ニシテ其内譯左表ノ如シ

區	分	受	付	發	送	計
養羊牧畜	雞豚馬牛		三五六		三四三	六九九
			九五		一一七	二二二
			二九		二一	五〇
			四二		五〇	九二

耕畜	七九	五二	一三一
製造	四三	四六	八九
講習	四一	二五	六六
庶務	一、〇〇九	二九一	一、五〇〇
會計	一三九	一五七	二九六
合計	二、〇三三	一、一二二	三、一四五

牧農夫ノ獎勵

牧農夫就業心得ノ規程ニ依リ本年度内慰勞休暇ヲ與ヘ表彰セルモノ左ノ如シ

表彰月日	慰勞休暇日數	役被	氏名	彰者名
十二月廿七日	四	牧	北川萬太郎	北川萬太郎
	四	農	岩石廣	岩石廣
	四	全	加藤清大	加藤清大
	二	收	勝部龜	勝部龜
	二	全	荒川經	荒川經
	二	小	田和	田和
			使夫	基雅市郎

第二章 家畜ニ關スル事項

第一畜牛

(一) 畜牛現在表

種類	類名	號	性	毛色	生年月日	身幹	體重	產地	摘	要
----	----	---	---	----	------	----	----	----	---	---

カウズ	コノスタンス	四七九	牝	赤褐	明治四十四年五月十五日	四七九	一七九〇	英國	明治四十一年輸入	
デゾ	第二コノスタンス	四七五	牝	褐	明治四十四年正月十四日	四七五	一四四〇	本場	蕃殖	
全	第三コノスタンス	三八五	牝	全	明治四十四年正月十四日	三八五	一三三五	全	全	
全	第三コノスタンス	四四六	牝	全	明治四十四年正月十四日	四四六	八一〇	全	候補蕃殖	
全	第三コノスタンス	二七六	牝	全	明治四十四年正月十四日	二七六	二二五	全	全	
全	第三ミカド	三八九	牝	全	明治四十四年正月十四日	三八九	六七〇	全	候補種牝牛	
全	エキザミナ	三〇〇	牝	全	明治四十四年正月十四日	三〇〇	三〇〇	全	全肥育試験牛	
全	コモザワレメ	三九七	牝	全	明治四十四年正月十四日	三九七	一〇一五	大原郡	候補種牝牛	
全	第二サウスオレン	三八八	牝	全	明治四十四年正月十四日	三八八	一〇四〇	美濃郡	全	
全	第五ル	三七七	牝	全	明治四十四年正月十四日	三七七	九一〇	大原郡	全	
全	第二ブレシデント	三七八	牝	全	明治四十四年正月十四日	三七八	九三〇	本場	全	
全	第六福富	四七四	牝	全	明治四十四年正月十四日	四七四	一八七〇	本場	役	

備考 表中身幹體重ハ大正五年三月末日ノ測定ニヨル

(二) 畜牛ノ異動

本年度内ニ於ケル畜牛ノ異動左ノ如シ

畜牛異動表

異動	種	類名	號	性	毛色	生年月日	産地	摘	要
拂下	デゾ	第二コノスタンス	四七五	牝	赤褐	明治四十四年十一月十日	本場	大正五年三月拂下	

全	三瓶畜産組合	大正五年三月十五日	全	富士	全	大正三年九月廿四日	全	全	全
全	邑智郡畜産組合	大正四年四月廿一日	全	第二エーアヤックス	濃褐	明治十四年三月十六日	全	本場	全
全	那賀郡畜産組合	大正四年九月十四日	全	チエリ	全	明治十四年六月十七日	全	全	全
全	美濃郡畜産組合	大正四年九月十四日	全	ハタヤアラウボーイ	褐	大正二年一月一日	全	大原郡	全
全	鹿足郡畜産組合	大正四年四月十八日	全	第四エーアヤックス	全	大正二年七月十五日	全	能義郡	全
全	那賀郡畜産組合	大正四年四月十八日	全	第二ビユーテーコリ	全	大正五年六月廿五日	全	大原郡	全
全	鹿足郡畜産組合	大正四年三月廿一日	全	フラワー	赤褐	明治十五年三月廿三日	全	全	全
全	那賀郡畜産組合	大正四年三月廿一日	全	ラチエルオフサウスオ	赤褐	明治十五年三月廿三日	全	全	全
全	鹿足郡畜産組合	大正四年三月廿一日	全	レンゾ	濃褐	明治十五年三月廿三日	全	全	全
全	那賀郡畜産組合	大正四年三月廿一日	全	コンプトンゼム	全	明治十五年三月廿三日	全	全	全
全	鹿足郡畜産組合	大正四年三月廿一日	全	第二ローヤルエンブレ	赤褐	明治十五年三月廿三日	全	全	全
全	那賀郡畜産組合	大正四年三月廿一日	全	ス	全	明治十五年三月廿三日	全	全	全

本表ニヨリ異動ヲ調査セバ左ノ如シ

種牡牛供用中ノモノ總計拾貳頭
 無償下付セルモノ
 拂下セルモノ

壹頭(デグオン種)
 壹頭(全)

縣下各畜産組合へ貸與種牡牛ノ大正四年中ニ於ケル種付成績左ノ如シ

(六) 貸與種牡牛成績表

貸與組合名	種	類名	號	種付頭數	分娩頭數
-------	---	----	---	------	------

三瓶畜産組合	全	第二エーアヤックス	一〇	一〇	一〇
邑智郡畜産組合	全	チエリ	三	三	三
美濃郡畜産組合	全	第四エーアヤックス	三	三	三
鹿足郡畜産組合	全	ラチエル、オフ、サウスオ	一	一	一
那賀郡畜産組合	全	レンゾ	一	一	一
鹿足郡畜産組合	全	第二ビユーテーコリ	一	一	一
那賀郡畜産組合	全	フラワー	一	一	一
鹿足郡畜産組合	全	ラチエルオフサウスオ	一	一	一
那賀郡畜産組合	全	レンゾ	一	一	一
鹿足郡畜産組合	全	コンプトンゼム	一	一	一
那賀郡畜産組合	全	第二ローヤルエンブレ	一	一	一
鹿足郡畜産組合	全	ス	一	一	一
計	全		二四	二四	二四

備考 本表中種付頭數ナキモノハ未ダ育養中ノモノニシテ種牡牛ニ合格セサルモノトス

第二 馬 匹
 (一) 馬匹一覽表

種	類名	號	性	毛色	生年月	身幹	體重	産地	摘	車	用
トロッター	一回雜種	魁	牡	青	三十六年	五二五	二二〇	下總御	乘	車	用

備考 前表中身幹體重ハ大正五年三月末日ノ測定ニヨル

(二) 貸與種牡馬種付成績

縣下各畜産組合へ貸與中ノ種牡馬種付並ニ分娩成績左表ノ如シ

畜産組合名	種	類名	號	種付頭數	分娩頭數	種付開始年別
-------	---	----	---	------	------	--------

計 五厘四毛

以上ノ外各種共ニ毎日動物飼料トシテ鰯、魚屑、肉粉等ヲ與ヘ蔬菜ヲ到切シ給與ス其他貝殼粉、木炭粉末ヲ鶏舎ノ一隅ニ散布シ與ヘ自由ニ嚙マシム

雛飼料調

雛ノ孵化時ヨリ百日雛ニ達スル間ニ於ケル飼料品目及數量價額ヲ調査セバ左ノ如シ

第一例 飼料表 (雛十羽ニ對スル分)

飼料品目	數量	價額	飼料給與日數	期
粟	1000	1000	100	全上第一回
卵	1000	1000	100	全上第二回
小麥	1000	1000	100	全上第三回
燕麥	1000	1000	100	全上第四回
批	1000	1000	100	全上第五回
穀	1000	1000	100	計
骨粉	1000	1000	100	
鰯	1000	1000	100	
鱈	1000	1000	100	

品	計	金
十羽ニ對スル一日分飼料	1000	1000
一羽一日ノ飼料費	100	100

前表給與飼料ニ依リ育成シタル雛ハ孵化后完全ナル發育ヲ遂ケ發育極メテ良好ナリキ

第二例 孵化二週后ニ於ケル飼料 (四週間雛百羽分一日量)

品	目	數	量	價	額
計					
燕麥	割	1	升	20	20
麥	割	5	合	3	15
批	割	1	升	3	3
穀	割	3	合	2	6
米	計	1	升	20	20

前表飼料ハ渣乳又ハ煉乳蠟洗藻汁若クハ微温湯ニテ硬ク捏リ與ヘ外ニ蔬菜ノ到切セルモノヲ毎日適宜給與セリ

第三例 雛飼料 (大正五年二月廿九日ヨリ實施)

品	目	混合歩合	單價	價	額
亞麻仁油	粕	5%	100	5	5
粟	米	5%	100	5	5
粉	米	1%	100	1	1

種	明治四十三年度以降各年度ニ於ケル種禽(種雛)種卵拂下數量左表ノ如シ			
	三年度	四年度	大正元年度	大正二年度
カ	110	110	110	110
ア	110	110	110	110
ス	110	110	110	110
黒	110	110	110	110
銀	110	110	110	110
横	110	110	110	110
ナ	110	110	110	110
鷺	110	110	110	110
九	110	110	110	110

(五) 種禽(種雛)及種卵拂下表

郡市別	種				卵			
	三年度	四年度	大正元年度	大正二年度	三年度	四年度	大正元年度	大正二年度
飯	784	217	109	359	0	81	11	502
仁	84	93	76	86	0	11	11	11
大	20	3	6	3	0	0	0	0
能	10	7	6	6	0	0	0	0
八	10	7	6	6	0	0	0	0
松	10	7	6	6	0	0	0	0
江	10	7	6	6	0	0	0	0
東	10	7	6	6	0	0	0	0
義	10	7	6	6	0	0	0	0
原	10	7	6	6	0	0	0	0
多	10	7	6	6	0	0	0	0
石	10	7	6	6	0	0	0	0
計	1077	378	255	378	0	111	111	111

種	種雛				種卵			
	三年度	四年度	大正元年度	大正二年度	三年度	四年度	大正元年度	大正二年度
川	134	32	16	49	0	0	0	0
智	134	32	16	49	0	0	0	0
濃	134	32	16	49	0	0	0	0
那	134	32	16	49	0	0	0	0
美	134	32	16	49	0	0	0	0
鹿	134	32	16	49	0	0	0	0
隱	134	32	16	49	0	0	0	0
縣	134	32	16	49	0	0	0	0
計	134	32	16	49	0	0	0	0

大正四年度内ニ於テ拂下タル種雛種卵ヲ種類別ニ表示セバ左ノ如シ

拂下種雛種卵種類別員數表

種	種雛				種卵			
	三年度	四年度	大正元年度	大正二年度	三年度	四年度	大正元年度	大正二年度
簞	134	32	16	49	0	0	0	0
川	134	32	16	49	0	0	0	0
智	134	32	16	49	0	0	0	0
濃	134	32	16	49	0	0	0	0
那	134	32	16	49	0	0	0	0
美	134	32	16	49	0	0	0	0
鹿	134	32	16	49	0	0	0	0
隱	134	32	16	49	0	0	0	0
縣	134	32	16	49	0	0	0	0
計	134	32	16	49	0	0	0	0

第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十
地	地	地	地	地	地	地	地	地	地
番	號	號	號	號	號	號	號	號	號
號	號	號	號	號	號	號	號	號	號
區	區	區	區	區	區	區	區	區	區
分	分	分	分	分	分	分	分	分	分
反	反	反	反	反	反	反	反	反	反
別	別	別	別	別	別	別	別	別	別

一、本場ニ於ケル作付段別ハ左ノ如シ

第四章 農事ニ關スル事項以上各表ノ如シ

備考 本表ハ本場購入品ニ依リ調査シタルモノナリ

醬油	一貫	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.
麵全	020.	020.	020.	020.	020.	020.	020.	020.	020.	020.	020.	020.	020.	020.	020.	020.	020.	020.	020.	020.
乾草	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.
食糧	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.
家畜	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.
玉獨	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.	000.

大麥	一升	020.	020.	020.	020.	020.	020.	020.	020.	020.	020.	020.	020.	020.	020.	020.	020.	020.	020.	020.
批(上)	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.
大豆	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.
米	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.
穀	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.
大豆	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.
粟	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.
蕎麥	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.	010.

(六) 飼料價格異動表

本年度拂下數前表以外試驗ヲ兼テ拂下出願者ノ希望ニヨリ雜種卵ヲ拂下タルモノ次ノ如シ
 九十五顆
 黑色ミノルカ九斤雜卵種
 九十五顆
 本年度拂下數以外試驗ヲ兼テ拂下出願者ノ希望ニヨリ拂下タル雜種次ノ如シ
 黑色ミノルカ九斤一代雜種
 五十羽
 九羽

計	八七五	一五〇	三〇〇
---	-----	-----	-----

播種量 一反步當五斤乃至七斤
 播種法 條播又ハ撒播ニシテ播種后ノ細分セル熟肥又ハ藁灰ヲ撒布ス
 播種后ノ管理 播種后一、二回除草ヲ行ヒ追肥ハ除草后直ニ施用シ嫩芽ノ保護伸長ニ勉ム

(三) 混播牧草之部

一、耕種法

整地 牛耕ニテ土地ヲ耕起數回鋤返ヘレテ行ヒ厩肥ヲ鋤込ミ後テ人耕ヲ以テ土塊ヲ粉碎整地シ幅六尺ノ畦ヲ作ル
 肥料 元肥過磷酸石灰七貫匁厩肥六百貫匁追肥稀薄牛馬尿又ハ人糞尿五十貫匁
 但一反步當ノ施肥量トス

播種期 十月上旬

播種量 一反步當八斤乃至十斤(各種混合種子重量)播種後ノ管理翌春二、三月ノ初ニ於テ稀薄牛馬尿ヲ施用シ每秋期一回腐熟セル厩肥ヲ粉碎撒布シ追肥スル外中耕除草ヲ行ハズ

混播牧草ノ種別

混播牧草ノ種類及混合割合次ノ如シ

混播牧草種類名(甲)	一反步ニ對スル混合種子量	混播牧草種類名(乙)	一反步ニ對スル混合種子量
オーチャードグラス	百八十匁	スウキートセンタッドパーナルグラス	五十匁
チモセーグ	六十匁	クレステッドグラス	五十匁
メドーフオックステール	百八十匁	ベレコアラグ	五十匁
メドーフエスキュー	百二十匁	メドーフオックステール	五十匁

混播牧草種類名(丙)	一反步ニ對スル混合種子量	混播牧草種類名(丁)	一反步ニ對スル混合種子量
トールオーグ	六十匁	クラーピング	五十匁
スウキートセンタッドパーナルグラス	九十匁	オーチャード	二百四十匁
レツク	八十四匁	レツク	五十匁
アルサイクログ	三十六匁	チモセー	五十匁
オーチャード	百八十匁	トール	二十匁
トール	百二十匁	メドーフ	五十匁
メドーフ	百四十五匁	レツク	五十匁
ベレコアラグ	八十五匁	メドーフ	五十匁
メドーフ	三十五匁	レツク	五十匁
レツク	二百四十匁	スウキートセンタッドパーナルグラス	八十匁
レツク	二百四十匁	チモセー	八十匁

本年度牧草收穫成績次表ノ如シ

畑地番號	反別	種類	播種年月	一回	二回	三回	四回	計	草量	一反步換算
(北) 一	一	オーチャードグラス	明治四十一年	100	100	100	100	400	100	100
(北) 二	一	オーチャードグラス	全	100	100	100	100	400	100	100
(南) 三	一	混播牧草	全	100	100	100	100	400	100	100
(北) 四	一	レツク	大正二年十月	100	100	100	100	400	100	100
(南) 五	一	レツク	全	100	100	100	100	400	100	100
(北) 六	一	混播牧草	全	100	100	100	100	400	100	100
(南) 七	一	混播牧草	全	100	100	100	100	400	100	100

路(丁)	(中)	(西)	(西)
一三六	一三〇〇	四〇〇	七〇〇
混播	レツドクワ	混播	オーチャードグラス
牧草	牧草	牧草	牧草
自然發生	自然發生	自然發生	自然發生
月	月	月	月
一八〇	二二七九	四一〇	三二五
一〇二	九七五	一五六	四八三
六七	一一一	一一一	一一一
一一一	三三三	一一一	七九八
三七一	三三三	一一一	五七六
三七一	二五八〇	一一一	一四四〇
一九五〇	一一五〇	一一一	一一四〇

本表中第六號地南北兩區ハ第一回刈取收穫後(六月中旬)夜盜蟲發生全畑ニ蔓延シ極力乏シガ驅除防禦ニ務メタルモ第二回後ノ收穫ハ皆無ナリシ本畑ハ秋期ニ於テ耕起シ整地シテ他ノ飼料作物ヲ栽培セリ本表中路側牧草ハ路側ニ牧草種子ヲ散布シ自然ノ生育ニ任セタルモノニシテ路側ニ於ケル牧草ノ生育ト其收穫量ノ如何ヲ試験調査シタルモノナリ本成績ニ據レバ道路約五町ノ距離兩側ニ牧草ヲ自然ニ放任シ栽培スルモ一ケ年三回刈取ニテ約二千貫匁ノ生草ヲ收穫スルヲ得ベシ千貫匁ニ付金十圓トスルモ五町ノ路傍ヨリ一ケ年間金二十圓一町ノ路傍ヨリ金四圓ノ良生草ヲ得ベシ路傍堤坊ノ利用豈認ニスベケンヤ本試験ハ更ニ繼續實施セントス

(四) 燕麥之部

一、耕種法
 整地 耕起後土塊ヲ碎キ均平ニ整地シ作切ヲ深クシテ厩肥ヲ埋メ過磷酸石灰ヲ加用シテ播種ヲナシ覆土ヲ行フ
 肥料 一反歩ニ對スル施肥量ハ左ノ如シ

肥料名	總量	元	肥追	肥
堆肥	五〇〇	七	一〇〇	一〇〇
過磷酸石灰	七	七	七	七

牛馬尿	1000	1	1000
-----	------	---	------

畦幅二尺播種期自十月上旬至十一月上旬
 播種量 一反歩當八升 播種法 條撒播
 中耕及除草 翌年三月初旬除草ヲ兼テ中耕ヲ行ヒ後其株間ニ厩肥ヲ施用ス

青刈燕麥收穫成績

區別	種類	類	收穫期	一反歩生草收穫量
四年平均	バービスウエルカム	五月下旬	一反歩	八三〇
五年平均	ナイヤガヲ	五月下旬	一反歩	九六〇
四年平均	レニス	五月下旬	一反歩	八三〇
五年平均	レニス	五月下旬	一反歩	八三〇
大正四年	バービスウエルカム	五月下旬	一反歩	一〇五〇
全	バービスウエルカム	五月下旬	一反歩	一〇五〇
全	ナイヤガヲ	五月下旬	一反歩	一一〇〇
全	レニス	五月下旬	一反歩	九六〇
全	レニス	五月下旬	一反歩	九六〇

(五) 大豆之部

一、耕種法
 整地 前作青刈燕麥刈取後半耕ニテ二回耕起シ六尺畦ニ溝切リヲナシ整地ス
 播種期 自五月中旬至六月上旬
 播種 撒播後過磷酸石灰及熟肥ヲ撒布シ薄ク覆土ス採種用大豆ハ點播トス
 肥料 過磷酸石灰七貫匁厩肥四百貫匁

生育狀況 各年五月中ニ播種セルモノハ生育良好ニシテ莖葉共ニ肥大シ六月中殊ニ下旬ニ播種セルモノハ生育充分ナラズ

青刈大豆收穫成績

年別	種類	類	收穫期	生一草反歩當	全上乾草量	生草十貫ニ對スル乾草量歩合
五ヶ年平均	早熟三島			六三〇	一五五	二四三
七ヶ年平均	晚熟三島			六九〇	一六五	二四七
四ヶ年平均	青森大豆			六二〇	一四七	二三六
大正四年	早熟三島		七月十五日	六〇〇	一四〇	二三三
全	晚熟三島		九月二日	九〇〇	一八〇	二三九

隱岐國野生蔓大豆 (方言味豆)

明治四十五年初メテ栽培セリ

一、耕種法

整地 普通青刈大豆ノ整地ニ同ジ

肥料 厩肥四百貫、過燐酸石灰七貫、

但一反歩當

播種期 四月下旬

播種法 條撒播

生育狀況 播種後二週日ニシテ發芽シ生育ハ速カナラザルモ蔓生ニシテ柔軟ナル莖葉ノ縱横ニ伸張シ長キモノハ六七尺ヨリ一丈余ニ達ス

青刈收穫成績

收穫期	一反歩當	生草量	全上乾草量
大正元年九月三日		六二〇	一五五
全 二年九月五日		九〇〇	二九七
全 三年九月廿三日		九〇〇	二六〇
三ヶ年平均		八〇〇	二四四

本年度ニ於テハ栽培セズ

(六) 玉蜀黍之部

一、耕種法

整地 春期燕麥及春蔬菜ノ間作トス

肥料 一反歩ニ對シ鍊拌粕六貫、過燐酸石灰七貫、厩肥三百貫

播種期 五月上旬

播種法 點播株間距離一尺

播種后ノ管理 六月中旬人尿尿ヲ追肥シ隨時除草ヲ行ヒ全月下旬土寄ヲナス

生育狀況 移植后ノ生育頗ル良好ナリシガ六月十一日夜盜蟲發生漸次蔓延シ極力之レガ驅除豫防ニ務メタルモ其莖葉ハ殆ンド食盡シタル爲メ收穫ハ皆無ナリシ既往ノ成績ヲ舉クレバ次ノ如シ

年別	收穫期	一反歩當	全上乾草量	品位	莖長
明治四十二年	八月中旬	一、一〇〇	四九七	中	一
全 四十二年		一、一〇〇	五〇〇	上	一
全 四十三年		一、一〇〇	五〇〇	中	一
全 四十四年		一、一〇〇	五〇〇	下	一

大正元年全年	11,200	9,200	3,600	3,600
四間ケ年平均	11,200	6,300	3,600	3,600

一、耕種法

整地 青刈燕麥刈取後牛耕コテ再三耕起シ平均ニ整地ス

肥料 玉蜀黍ニ同マ

播種法 條播

播種期 五月一日

パールミレット

青刈收穫成績

收穫刈取期	一反當收穫量	莖長	平均
大正元年九月一日	1,230		1,500
全 二年九月二日	1,110		1,110
全 三年九月三日	1,650		1,150
全 四年九月十七日	1,500		1,200
四ケ年間平均	1,445		1,170

備考 本種ハ數回ニ刈取ルヲ利益トスルガ故ニ本年度ニ於テハ數回ニ刈取收穫メタリ其量次ノ如シ

收穫刈取期	一反當收穫量	莖長	平均
-------	--------	----	----

大正四年七月十九日	1,120	1,000
全 八月廿日	800	800
全 九月廿日	1,050	950
計	3,070	1

(七) 根菜之部

本年度中栽培セシ種類及收穫量次ノ如シ

種類	類	收穫期	一反當收穫量
練馬大根	十	二月中	1,450
宮重大根	全		1,500
方領大根	全		1,200
時無大根	六	月中	1,000

(八) 葉菜之部

一、耕種法

整地 大根ノ整地ニ全ク但大芥菜ハ苗ノ移植ヲ行フ

肥料 人糞尿三百貫 厩肥三百貫 過燐酸石灰ヲ加用ス

播種期 春蒔ハ四月中旬秋蒔ハ九月中旬

播種後ノ管理 大根ト略全様ナリ時々害蟲驅除ヲ行ヘリ但シ大芥菜ハ其葉ヲ時々收穫スルヲ以テ比較的多少肥料ヲ要ス

收穫成績

年別	種別	別種	收穫期	一反歩當收穫量
大正三年	大芥	菜	翌年三月ヨリ五月中	1,200
大正四年	大芥	菜	十二月五日	200
大正四年	大芥	菜	翌年三月ヨリ五月	1,110
大正四年	大芥	菜	十二月十五日	960
大正四年	大芥	菜	十二月十五日	960
大正四年	大芥	菜	十二月十五日	1,050

甘藍之部

一、耕種法

苗床 九月下旬人耕ニテ丁寧ニ耕起整地シ幅三尺ノ畦ヲ造リ之レニ播種セリ
 移植 第一回移植ハ十二月中旬之ヲ行フ
 整地 ハ人耕ニテ深鋤シタル後細耙シテ土塊ヲ碎キ平坦ニ整地ス而シテ左ノ距離ニ畦切ヲナシテ最
 モ深ク溝ヲ設ケ腐熟セル厩肥ヲ敷キ入レ一旦覆土ヲナシ人糞尿ト糞灰ヲ加用シ土ト混和セシメ後
 苗ヲ植フ畦幅二尺二寸株間一尺五寸
 移植后ノ手入 生育状況ヲ見計ヒ時々水肥ヲ與ヘ又ハ下葉撈キヲ行ヒ除草ヲナシ最モ害虫ノ發生
 ニ注意シ驅除ヲ行フ
 肥料 肥料ノ種類用法左ノ如シ

肥料名	用	量	元	肥	追	肥
鶏糞ト厩肥ト混合堆積シタル		150				
人糞		300				
過磷酸石灰		150				

收穫成績表

種別	收穫期	結球シタルモノ	結球セサルモノ	實收量	收穫ニ對スル球結シタルモノハ歩割
早生	自八月下旬	1,070	2,500	1,500	九割五分
晚生	自八月下旬	1,200	1,800	1,200	九割五分

見本園牧草

本場見本園ニ栽培セル牧草ノ種類次ノ如シ

- 第一區 スウヰー！トセントツトバーナルグラス
- 第二區 メドーフェスキュー
- 第三區 トールオートグラス
- 第四區 ベレコアルライグラス
- 第五區 イタリアンライグラス
- 第六區 クレステッドドックスター

- 第七區 メドーフォックステール
- 第八區 オーチヤードグラス
- 第九區 チモセーグラス
- 第十區 レッドクロヴァー
- 第十一區 ルーサン
- 第十二區 アルサイクロヴァー
- 第十三區 クリーピングベンダグラス

(九) 牧草種子ノ配布

本年度内牧草種子ノ配布セル種類數量及個所左ノ如シ

種別	配布數量	配布個所
ホワイトクログアー	1,200	縣下各郡
オーチヤードグラス	500	松江市、八東郡
レッドクロヴァー	100	松江市、八東郡
パルミレット	100	隠岐、飯石、能義郡
燕麥	100	八東、能義、簸川郡

第五章 試驗ニ關スル事項
(一) 生草貯藏試驗成績

窖番號	種別	生草埋藏量	上等ユンシ レージ量	腐敗シタル モノ量	貯草量ニ對スル シレージ割合
第一窖	燕麥、混播牧草、オーチヤードグラス	1,668.5	1,104.0	50.0	61%
第二窖	燕麥、混播牧草、オーチヤードグラス	525.1	433.5	33.0	82%
第三窖	苜蓿、レッドクロヴァー	633.5	368.0	28.0	55%
第四窖	苜蓿	623.5	300.0	1.0	45%
計		3,460.6	2,111.0	100.0	70%

備考 本表變敗埋草ハ殆ンド豚飼料ニ供用セリ

エンシレーシ開窖ノ狀況

本年度貯草セル各種ノエンシレーシ開窖ノ狀況次ノ如シ

第一窖 本窖ノ貯草ハ大正四年五月廿五日ニ第一回ヲ續テ五月廿九日六月四日六月十三、十六日ノ數回ニ貯藏ヲ爲シタリ其種類及埋藏量ハ青刈燕麥七百八十六貫四百匁混播牧草二百十九貫三百匁オーチヤードグラス六百八十二貫八百匁計千六百八十八貫五百匁ニシテ開窖ハ大正五年一月六日ヨリ同月廿九日迄ノ間ニ採出シタルニ埋藏草ハ頗ル可良ニシテ採出量壹千二百貫三百匁ニ對シ僅カニ七十六貫匁ノ變敗量ヲ見タリ

第二窖 本窖ノ貯草ハ大正四年五月廿一日ニ第一回ヲ續テ同月廿七日六月四日ノ三回ニ埋藏ヲ爲シタリ其種類及埋藏量ハ燕麥百六十五貫九百匁混播牧草百卅五貫オーチヤードグラス二百二十四貫二百匁計五百廿五貫百匁ニシテ開窖ハ大正五年二月一日ヨリ同月十二日迄ノ間ニ採出シタ

ルニ適當ノ醱酵ト香氣ヲ有シ品質第一等ノモノニ劣ラズ採出量四百三十二貫五百匁ヲ得タリ
 第三等 本等ノ貯草ハ大正四年五月廿八日ニ第一回ヲ續テ四回ノ詰込ミヲ行ヒテ其種類ハ苜蓿百
 九貫八百匁レツドクワア一五百十三貫七百匁計六百二十三貫五百匁ニシテ開窖ハ大正五年二
 月一日ヨリ全年全月十二日迄ノ間ニ採出ス埋草ハ窖ノ上層僅ニ變敗ノ傾アリシモ其他ハ全部畜牛
 飼料ニ供用セリ

第四等 本窖ハ大正四年十月新設ヲ待テ甘藷蔓六百三十一貫五百匁ヲ埋藏セリ

一、貯藏方法 甘藷蔓ヲ長ハ六七寸位ニ判切シテ窖ノ内部ニ隙間ヲ生セザル様充分ニ踏込ミ生草
 量千貫匁ニ對シ家畜糞一斗五升ノ割合ヲ以テ均一ニ撒布シテ反覆詰込ヲ行ヒ其上ニ藎ヲ覆ヒ板
 蓋ヲ施シ數百貫匁ノ土俵ヲ載セ壓下セリ開窖ハ大正五年二月十四日ニシテ全年全月廿六日迄ニ
 出シタリ埋藏甘藷蔓ノ上層黑色ニ變化セルモノ二十貫ニシテ其他甘藷蔓ノ葉部稍々黑色ヲ呈
 セルモ香氣可良ニシテ乳牛飼料トシテ嗜好ニ適シ最モ良好ナリシ

生草埋藏委託試驗

畜牛飼料トシテ冬期生草ヲ給與スルハ最モ經濟的價値アルノ法ニシテ殊ニ本縣ノ如キ雨量多ク乾草調
 製困難ナル地方ニ於テハ生草ノ貯藏法トシテエンシレシノ製造ヲ普及スルヲ利益アリトス依テ本場
 ハ簡易ナル方法ニ依リ明治四十四年地上カイロ一ト大正元年以降地下カイロ一數個ヲ設置シ各種ノ草類
 ニ就キ貯藏試驗ヲ行ヒタルニ何レモ成績良好ニシテ當時其成績ハ發表セリ之レガ普及獎勵ヲ爲シテ
 爲メ更ニ大正四年度ニ於テ本場事業トシテ縣内拾個所ニ該試驗ノ委託ヲ爲シタリ之レ試驗ヲ委託セル
 各地方ニ方ケル實績ヲ擧ケ地方農家ニ範示センガ爲メニシテ本場生草埋藏委託試驗内規ニ基キ試驗ヲ
 委託實施シタル氏名次ノ如シ

委託者住所氏名

八東郡熊野村	白鹿熊次郎
能義郡布部村	西田乙市
全郡荒島村	多和廣
大原郡春殖村	原伊太郎
飯石郡吉田村	田部長右衛門
簸川郡大津村	簸川郡畜産組合
美濃郡安田村	山崎新内
鹿足郡日原村	古山作左衛門
海士郡海士村模範農場	吉木勝太郎
松江市母次町	原孫市

本試驗委託内規左ノ如シ

大正四年度生草埋藏委託試驗委託内規

- 第一條 生草埋藏委託試驗ノ委託ヲ受ケムトスルモノハ本内規ニ依リ五月末日迄ニ本場ニ出願スベシ
- 第二條 本年度内本場ニ於テ委託スベキ試驗箇所數ハ拾個所ニシテ一箇所ニ付金拾圓ヲ支給ス
- 委託出願者十名ヲ超過シタルモ本場ニ於テ必要ト認メタルモノヨリ順次許可ス
- 第三條 試驗委託ヲ受ケタルモノノ築造スベキ埋藏窖ノ大サハ内徑三尺深サ四尺以上トス
- 埋藏草ノ種類ハ苜蓿、紫雲英、クワア一並ニ其他ノ豈料草類及甘藷蔓並ニ雜草類トス
- 第四條 委託試驗ノ許可ヲ受ケタルモ左ノ事項ヲ本場ニ報告スベシ
 - 一、埋藏窖ノ大サ及築造法並ニ築造期日
 - 一、埋藏草ノ種類、數量及埋藏時期

一、埋藏草ヲ給與スベキ家畜ノ種類頭數並ニ給與豫定期間

第五條 委託試驗ノ許可ヲ受ケタルモノハ左ノ事項ヲ大正五年三月末日限リ當場ヘ報告スベシ

一、埋藏草ノ性狀、品質、數量ノ概況
一、給與家畜ノ營養狀態並ニ埋藏草ト同一草類ヲ乾草トナシ給與セル場合及他飼料トノ飼料的價値ノ比較

一、埋藏草ニ對スル地方農家ノ意向

第六條 委託試驗ノ許可ヲ受ケタルモノニシテ埋藏草ノ築造及埋草法等ニ就キ當場ノ指導ヲ受ケムトスルモノハ其旨申請スベシ

第七條 試驗委託ヲ受ケタルモノハ埋藏草及埋藏草ヲ參觀セムトスルモノニ對シ懇切ニ其實際及埋藏方法ヲ說示シ家畜給與ノ狀況ヲ説明スベシ

第八條 本試驗委託費ハ第五條各項ノ報告后之レヲ支給ス
本試驗委託者ノ報告ニ基キ該試驗ノ成績ヲ要約セバ次ノ如シ

埋藏草ノ性狀品質數量

九月十月中ニ刈リ込メル詰草及雜草ヲ混壓ス綠褐色ヲ呈シ香味アリ何レモ好メデ之ヲ食ス貯草量四百貫匁(原伊太郎)

畦畔ニ發生セル二番草ニシテ禾本科八分荳科二分ノ割合ナリ品質柔軟コシテ野草中ノ上位ニアリ一畝ノ貯草量六百貫匁(田部長右衛門)

帶黃青褐色ニシテ少シモ腐敗ノ徵候ナク且實質ヲ損セズ芳香性ノ微酸臭アリ品質佳良貯草量約六百貫匁(兼川郡畜産組合長)

性狀黃色ヲ帶ビ酸臭ト甜味アリ品質良好貯草量百二十九貫五百匁(吉木勝太郎)

品質佳良貯草量二百五十貫匁(山崎新内)

紫雲英及畦畔雜草コシテ品質甚善良ナリシガ只畝ノ周圍ニ接シタル幾部分ハ少シク黑色ニ變色セルモ漸次下層ニ至ルニ隨ヒ變色ノ量ヲ減ズ貯草量五百二十六貫匁(白鹿熊次郎)

畝ノ上部一尺許リ土壁ニ接シタル部分腐敗セシモ其他ハ上部ヨリ黃色ヲ呈スルノミ品質佳良貯草量六百五十貫(西田乙市)

山草ヲ埋藏ス貯草量五百貫匁(多久和廣)

埋藏草ヲ取出シ攪離シタルニ莖葉花實ノ離散セザル事生草ノ時ト異リタル点ナシ色ハ綠褐色トナリ耐張力ハ生草ヨリモ稍々強キ氣味アリ芳香ヲ放チ品質佳良貯草量約七百貫匁(古山作左衛門)

浸水ノ爲メ全部腐敗(原孫一郎)

○給與家畜ノ營養狀態並ニ埋藏草ト全一草類ヲ乾草トナシ給與セル場合及他飼料トノ飼料的價値ノ比較

營養狀態頗ル良好畜牛三頭何レモ好メデ之ヲ食ス他飼料トノ價値比較ノ生草一、埋藏飼料三ノ割合(原伊太郎)

試驗牛貳頭ヲ除クノ外畜牛ニハ日量一貫五百匁馬匹ニハ壹貫匁ヲ給與セルコト何レモ嗜好シ營養狀態亦佳良ナリ尙牛二頭ニ對シ給與試驗セシモノ左表ノ如シ

牝牛年諭	給與草	日量	價格	日數	摘
六	才乾	一貫五百匁	錢九	十日	營養最善
三	才埋藏	二貫	錢九	十日	營養最善

乾草ハ天候ノ如何ニヨリ著シク其價値ヲ減ズルコトアルモ埋藏草コ在リテハ其思無キノミナラズ嗜好

ノ程度ニ於テ青稜ノ差アリ(田部長右衛門)

給與家畜ノ營養狀態最モ佳良埋藏草ト全一草ヲ乾草トナシ給與セル場合乾草トナセハ貴重ナル營養分
ヲ失フノミナラズ天候ニ依リテ微菌等ヲ發生シ品質ヲ害フヲ以テ埋藏草ノ方勿論有益ナリ、穀、大麥
等ノ飼料ト全一價額ノ下ニ試驗セシヨ有利ナルヲ認メタリ(兼川郡畜産組合)

牝二頭ニ給與セシヨ一頭(八才)ハ最初ヨリ好シク食セシヨ一頭(二才)ハ二三日間ハ之ヲ好マザリ
シニヨリ米糠ヲ振り掛ケ喰ヒ馴レシメタルニ逐日之ヲ嗜好スルコト至レリ爾后二十日目頃ヨリ乾草給
與時ニ比シ被毛ノ光澤著シク食欲亦増進セリ當海士村ノ如キ冬季ノ飼料乏シク又甘藷蔓ノ如キハ一
般ニ多量ノ生産アルニ係ハラス之ヲ野外ニ曝乾シ主要ナル營養分ヲ損失シ殘滓ノミヲ與フル所ニ在
リテハ之レガ普及ヲ切望シテ止マズ(吉木勝太郎)

デブオン種四頭ニ給與セシヨ何レモ喜ビテ食セリ埋藏草ト乾草トノ給與比較ハ未ダ詳シキ事實ヲ得ザ
ルモ肉付歩合良好ナラント思考ス(山崎新内)

給與ノ當初五六日間ハ家畜ノ嗜好ニ適セサルモノノ如クナリシモ漸次嗜好ノ程度ヲ増進シ全一草類ノ
乾草ト比較スル時ハ營養狀態良好ナリ他飼料トノ價値ハ計數的ニ比較スルコト能ハザルモ乳牛ニ給
與スルヲ以テ其價値尠少ニアラズト信ズ(白鹿熊次郎)

家畜ハ埋藏草ヲ最モ好ミ食欲ヲ増シ健康狀態ヲ増進セリ紫雲英ヲ充分ニ乾燥セシ時ハ生草ノ十分ノ二
アリ其乾草ヲ貯藏シタルニ微敗シ易ク營養ノ價値ヲ損ズ尙乾燥ノ爲メ取扱ヒコ損失多シ故ニ飼料的
價値生草ノ十分ノ三ニ過ギズ然ルニ埋草ハ手數ヲ省キ貯藏シ易シ而シテ其損失ハ腐敗物及減量ヲ見
込約壹割半ナルベク飼料的價値十分ノ八、五ヲ有ス埋草壹貫匁ハ大豆粕二百匁ト大麥五合ト同一ノ價
値ヲ有ス而シテ家畜ハ埋草ヲ嗜好セルヲ認ム(西田乙市)

埋草給與ノ結果家畜ハ頗ル肥滿セリ埋藏草ハ冬期間家畜ノ飼料トシテ他ニ比類ナキ安價ナル飼料ナル

コトヲ自覺セリ全一草類ニシテ乾草ト埋草トヲ家畜ニ給與セバ乾草ハ食セズ埋草ハ豫想以外ニ好ミ
食セリ(多久和廣)

給與シツノアル家畜ハホルスタイン雜種乳牛ニシテ一月一日始メテ給與セシニ二三日間嫌忌ノ狀ヲ見
シモ四日目頃ヨリ快食スルニ至レリ毛色ニ一種ノ艶ヲ帯ヒ糞ハ適宜ニシテ乳量ノ持續長キモノノ如
シ又續ハ大正四年八月生ノモノナレドモ乳不足ノ爲メ營養不良ニ陥リシガ該品ヲ給與セシヨヨリ急
ニ狀態ヲ一變シ普通ノ積ニ劣ラザル狀態ニ復シタリ埋藏草ハ同種ノ乾草ニ比シ家畜ノ嗜好ニ適スル
ハ兩品ヲ同時ニ給與スルニ埋藏草ヲ食シテ乾草ヲ顧ミザルヲ見テ認識スルニ至レリ又乾草ニ比シ食
慾ヲ増進セル傾キアルモノノ如シ、他飼料ト飼料的價値ニ至リテハ學術的調査甚ダ困難ナレドモ農家
家畜ノ冬期飼料トシテハ製法簡易ニシテ且ツ簡便ナルコト埋藏草ニ及ブモノナシト思考ス(古山作左衛門)

埋藏草ニ對スル地方農家ノ意向

埋藏飼料給與ノ狀況ニヨリ近隣漸ク其必要アルヲ認メ來訪スルモノ多シ(原伊太郎)

多年ノ習慣ヲ捕ハレテ兎角乾草ヲ冬期唯一ノ副飼料ト解セシモノ多キモ中ニハ埋藏草ニ着眼セルモノ
モ決シテ尠カラズ明年度ニ於テハ飯石郡畜産組合ニテ之レガ試驗ニ着手セラルル筈ナルヲ以テ上下
相待テ大ニ之レガ普及ヲ計ラント期ス(田部長右衛門)

地方農家ノ意向ハ宜シク漸次獎勵普及スル計劃ナリ(兼川郡畜産組合)

開窓ニ當リ希望者ヲ招キ之ヲ實見セシメ且埋草ヲ與ヘタルニ各其有利ナルヲ悟リ本秋ヨリハ之ヲ實行
セシトテ約セリ又附近部落ノ農談會席上ニ於テ埋草法及給與ノ成績ヲ發表獎勵シツ、アレバ本秋ヨ
リハ此ガ實行者ノ續出スルヲ期待シ居レリ(吉木勝太郎)

世人ハ非常ニ賞讃シ居レリ(山崎新内)

未ダ地方農家一般ニ周知セシムル能ハザルヲ以テ其意向ヲ普ク徹スルヲ不可能ナレト實見セルモノハ

大ニ歡迎セルヲ以テ將來埋藏害ヲ築造セントスル者増加スルノ傾向ナリ(白鹿熊次郎)
埋藏法ハ乾草ヨリ手數ヲ省キ且ツ冬季ノ飼料ニ最モ適シ尙家畜ノ嗜好ニ適スルヲ以テ公評高シ調査ノ爲メ續々來場者多シ(西田乙市)

近隣ノ畜産家ニ埋草ヲ配布シ家畜ニ給與セル結果家畜ノ好食セルト全貯藏法ノ容易ナル飼料ナルヲ知リ本年度ニ於テハ各所ニ埋藏セル狀態ナリ(多久和廣)

農民ノ來觀スルモノ七八十名ニモ及ベリ該物ノ芳香ヲ發スルニ惡臭ヲ感シ家畜ニ給與スルノ不當ナルヲ感スルモノ、如シ是レ習性ノ然ラシムル所ナラシ然ルニ家畜嗜好ノ狀況並ニ狀態ヲ觀察シ該物製法ノ簡易給與ノ簡便ナルヲ見テ該製法ノ有利ナルヲ認メタルモノ、如シ(古山作左衛門)

以上ノ模範的試驗成績ハ普テク畜牛飼養者ノ知ル處トナリ埋藏草製造ニ着手セルモノ漸次増加セリ殊ニ綠肥栽培ノ盛ナル地方ニ於テハ已ニ十數箇所ノ貯藏害ヲ建造スルニ至レリ翌年度以降ニ於テハ著シキ増加ヲ見ルニ至ルナラン而シテ本試驗ハ己ニ其目的ヲ達シタルヲ以テ委託ヲ廢シ本場ノミニ於テ試驗ヲ繼續セントス

(二) 酪農試驗

改良牛泌乳量ノ増加ニ從ヒ餘乳利用ノ方法ヲ講テ畜產收利ノ増進ヲ圖ラザルベカラズ殊ニ本邦海外輸入煉乳ハ逐年其量ヲ増加シ其輸入額ハ實ニ驚クベク多額ニ達セリ竊テ本縣農家改良畜牛ノ現況ヲ觀ルニ徒ニ積ノ哺乳スルニ放任シ乳產收利ノ方法ヲ講ズルモノ甚メ少シ爲メ改良ニ伴フ利益ヲ得ザルノミナラズ搾乳セザルガ爲メ却テ泌乳能力ノ減退ヲ來シ遂ニ畜牛改良ノ利益ナキヲ疑フモノアルニ至ル洵ニ遺憾ナリトス是レ生乳販路ニ遠カラタル農家產乳利用法トシテ牛酪、煉乳製造試驗ヲ要スル所以ニシテ殊ニ内國製煉乳ノ品質ガ海外輸入品ニ比シ著シク劣等ナルハ已ニ世人ノ認ムル處ナリ今ヤ歐洲ノ

戰亂ハ延イテ内地製品需用獎勵ノ機會ヲ與ヘ永ク舶來方能主義ヲ抱持スル我國民ノ將ニ覺醒セントシ多年苦心經營セル我國製乳事業家ヲシテ奮起發展ノ方法ヲ購ズベキノ時機ニ際會セリ然リト雖モ本邦斯業ノ技術頗ル幼稚稱コシテ未ダ良品ノ產出スルモノ尠ク今日ノ好機ニ於テ外、海外輸入品ヲ防遏シ内國產ノ製品ヲ以テ内國需用者ニ満足ヲ與フル能ハサルハ洵ニ遺憾トスル處ナリ本場ニ於テハ本問題ヲ解決センガ爲メ既往數年間試驗ヲ繼續實施シ今ヤ將ニ解決ノ端緒ニ就クヲ得タルヲ以テ製造上ニ於ケル技術並ニ收支經濟ヲ實地ニ模範ヲ示サシガ爲メ昨年度以來製乳試驗依頼手續ノ規程ニ基キ試驗依頼者ノ委託ヲ受ケ本年度内本場ニ於テ試驗製造シタル乳製品次ノ如シ

乳製品製造高

種別	數量	價額
牛煉乳	五三三	四、三〇〇
牛煉乳	一六六九	四、一七〇
牛煉乳	三三	三、〇〇〇
牛煉乳	四	一、六〇〇
牛煉乳	四	二、一〇〇
牛煉乳	四	二、一〇〇
計	二、〇〇〇	二〇、一七〇

本試驗ノ成績ハ別ニ之ヲ報告ス

(三) 乳牛搾乳試驗及幼駒育成並犢育養試驗

大正四年度内畜產試驗依頼手續ニ依リ委託試驗ヲ實施シタルモノ及本場犢牛ニ依リ試驗ヲ行ヒタルモノ次ノ如シ

搾乳試驗牛
 幼駒育成試驗馬
 犢育養試驗牛
 搾乳試驗依頼者

四頭
 壹頭
 九頭

八束郡朝酌村 松浦長太郎

試驗牛 エーアシャ種 第一ホワイトリリ一號白褐班 年輪五歲

本牛ハ第二次分娩ニシテ牝犢哺乳ス

乳牛ハ午前午後ノ二回ニ搾乳シ犢ハ搾乳後一時間宛母牛ト同様接哺乳セシメ其後ハ別房ニ隔離シ渣乳ト普通飼料ヲ以テ飼養セリ

飼養

乳牛飼料ハ午前七時正午午後五時ノ三回ニ分與シ飲水ハ午前午後ノ二回ニ給與セリ
 但飲水ハ冬ハ微温湯ニ數テ混テ充分ニ攪拌シテ少許ノ食鹽ヲ加ヘタルモノトス

乳牛ノ飼料

期 間	日 數	飼 料			日 食 量	干 草	飼 料 日 費	本 期 間 飼 料 費
		米	糠	大豆油粕				
自一月十九日	四日	五升	三升五合	三貫匁	五匁	一貫五百匁	月三九	月八七
自一月廿二日	七日	七升	二升	百廿匁	五匁	一貫五百匁	月二九	月一〇
自一月廿三日	廿八日	七升	二升	百廿匁	五匁	一貫五百匁	月二九	月一〇
自二月廿九日	廿一日	七升	二升	百廿匁	五匁	一貫五百匁	月二九	月一〇
計	七十三日	平均	平均	平均	平均	平均	平均 月二六	平均 月一四

計 七十三日 平均 月二六 月一四

牝犢ノ飼料

期 間	日 數	飼 料			日 食 量	干 草	飼 料 日 費	本 期 間 飼 料 費
		渣	乳	大豆油粕				
自一月十九日	十三日	一升	三升	三貫匁	五匁	一貫五百匁	月三〇	月三九
自一月廿九日	廿九日	二升	二升	百廿匁	五匁	一貫五百匁	月二六	月一四
自二月十四日	十四日	一升八合	五合	百廿匁	五匁	一貫五百匁	月二六	月一四
自三月十五日	十七日	一升八合	五合	百廿匁	五匁	一貫五百匁	月二六	月一四
計	七十三日	平均	平均	平均	平均	平均	平均 月二六	平均 月一四

搾乳量 調

期 間	日 數	搾 取 量	一 日 平 均 搾 取 量	生 乳 單 價	價 額
自一月十九日	十三日	三三.五五五	二.五八二	一貫〇付	月六二
自二月廿九日	廿九日	七三.三八五	二.五三二	一貫〇付	月六二
自三月十五日	十七日	八五.〇六五	二.七四四	一貫〇付	月六二
計	七十三日	一九二.〇〇五	平均	一貫〇付	月六二

乳牛及牝犢ノ營養狀態

乳牛ハ試験委託前ノ状態ニ比シ漸次營養佳良トナリ殊ニ牝牛ノ如キハ當初入厩ノ際ハ慢性膈加答兒ニ罹リ營養甚ダ不頁ナリシガ漸次營養回復シ今期ニ於ル状態ハ優ニ乳牛牝トシテ適當ノ發育ヲ遂ケツ、アリ

本委託牛ハ委託ノ初期ニ於テ泌乳量日量五升以下ナリシガ漸次増量シテ六升以上ヲ搾取シ加フルニ其營養ハ頗ル良好ニシテ体重ノ如キ著シク増量セリ

搾乳收支計算

區別	期	一日平均飼料費		飼料費金額
		自一月十九日	至三月三十一日	
牝牛	計	三六	四六	一九四三六
計				四六五

期	搾乳高	單價	價	價	額
計	12100	一貫二付	0100	0100	三六五〇一
					〇100
					三六五〇一

收支比較損益計算

支	出	入	差引	益金
	二四〇九〇	三六四〇一		一四三一一

前表ニ示スガ如ク本牛委託者ハ約二ヶ月半ノ期間ニ於テ金拾四圓三十一錢一厘ノ純益ヲ得タリ其一日平均ノ純益金十九錢六厘ナリトス而シテ母牛ノ營養状態ハ著シク良好トナリ体重亦増加セリ哺乳牛牝ハ委託時ノ營養状態不頁ニシテ殆ンド發育ノ見込ナカリシト雖ニ漸次回復シ年度末ニ於テハ己ニ數拾圓ノ價值ヲ有スルノ状態トナリタルヲ以テ其純益額ハ約金五十圓ニ達スベシ

幼駒育成試験依頼者

飯石郡吉田村 田部長右衛門

一、牡駒 盛典號

種類 內國產洋種
產地 飯石郡吉田村
生年月日 大正三年三月十五日
毛色 栗色

本幼駒ハ大正四年三月三十一日收容爾來合理的飼養管理ヲ施シタルニ發育甚ダ佳良ニシテ其試驗實施ノ方法及成績左ノ如シ

飼養管理

飼料ハ一日四回即チ朝晝夕及夜飼ニ區分給與シ飲水ハ朝夕ノ二回ニ飲引セシメタリ管理ハ午前午後ノ二回追運動ト逍遙運動ヲ行ヒ運動後皮毛ノ梳拭手入ヲ實施セリ而シテ飼料ハ其發育ノ狀況ニ依リ漸次増量又ハ飼料品種ノ變更ヲ行ヒ常ニ發育ト飼料ノ均衡ヲ保タシメタリ
本年度ニ於テ與ヘタル最初及最后ノ給與飼料ハ次表ノ如シ

大正四年四月ノ飼料一日分給與量

品名	數量	單位	價額
大麥	一	升	0.100
大燕	一	升	0.100
大豆	五	合	0.050
乾草	三	合	0.030
生草	五	合	0.050
鹽	五	合	0.050
計			0.480

備考 本飼料ハ入厩ノ當初ニ於テ体重六十七貫二百匁身幹四尺六寸二分ニ對シ給與セル飼料ナリ
大正五年三月ノ飼料一日分給與量

品名	數量	單位	價額
大麥	二	升	0.200
大燕	二	升	0.200
大豆	一	合	0.050
乾草	五	合	0.050
生草	五	合	0.050
鹽	五	合	0.050
計			0.750

備考 本飼料ハ委托后十ヶ月生后滿一ヶ年十ヶ月ニ於テ給與セル飼料ニシテ体重百匁身幹五尺〇寸ニ對シ給與シタル飼料ナリ
委托后滿一ヶ年間ニ給與セル飼料品目數量價額ハ次表ノ如シ

幼駒盛典號 生后一ヶ年目ヨリ滿一ヶ年間ノ飼料

品名	數量	單位	價額
大麥	八	石	34.77
大燕	六	斗	23.68
大豆	一	石	3.00
乾草	一	石	16.46
生草	一	石	17.45
鹽	一	斗	1.20
計			79.87

幼駒盛典號發育狀況

備考 平均一日ノ飼料費ハ金二十一錢八厘ヲ要シタリ
本委托試驗幼駒ノ發育ハ常ニ良好ニシテ適當ナル運動ヲ課シタルガ爲メ肉付狀態ハ稍々輕キノ感アリ
シモ筋骨能ク發育シテ體積ヲ増シ殊ニ運動機關ノ比較的發育セルヲ認ム其發育狀況次ノ如シ

盛典號發育表

區分	測定期	收容測定時	收容后三ヶ月	全上六ヶ月	全上九ヶ月	全上一ヶ年
身體	幹重	六六.100	六六.500	七二.000	七九.000	一〇七.000
		四三.二	四七.七	四八.一	五九.九	五.〇〇

計	五四八五二	六二
---	-------	----

収入

區分	金額	摘要
割豚賣却代	五六八〇	肥養后生体量百十七貫六百多一貫多=付金五十五錢=積算ス
肥料賣却代	七六九五	一日九貫多ノ肥料ヲ産シ百七十一日分千五百三十九貫多代十貫=付金五錢
計	六六四九五	

即チ收支損益計算ヲ表示セバ次ノ如シ

肥育豚收支計算表

支	出	收	入	差	引	損	益
	五四八五二		六六四九五	益			一一六四四

前表ニ示スガ如ク支出金五拾四圓八拾五錢一厘收入金六拾六圓四拾九錢五厘差引金拾壹圓六拾四錢四厘ハ約六ヶ月間六頭ノ割豚ヲ肥育スルニ依テ得タル純益ナリトス

第二 割豚加工試験

豚肉加工試験

本年度中加工試験ニ供用セシ肥育割豚六頭トス

第一 「ハム」「ペーコン」製法

一、屠殺準備

屠殺前日ヨリ絶食セシムルコト凡ソ二十四時間其間只水ノミヲ給與シ身体ヲ清潔ニシ休養セシム

二、屠殺

豚ヲ喧騒セシメズ綱ヲ以テ兩後肢ヲ堅ク搏シ手早ク之ヲ倒サマニ懸吊シ咽喉部ノ刺殺ニヨリ頸動靜脈ヲ切り充分放血ス

三、煤焙

次ニ豚体ヲ懸吊ヨリ卸シ大ナル木製鹽コ入レ之ニ熱湯(一斗ニ冷水一升五合混合)ノ割即華氏百四五十度ノ温)ヲ上ヨリ注キツ、捧ヲ以テ豚体ヲ充分動搖シ數分間滯ヲ被ヒ放置スルコト剥毛スルヲ程度トス

四、剥毛

最初手指ヲ以テ全体ノ被毛ヲ手早ク剥毛シ細毛又ハ剥毛ノ困難ナル部ハ銳利ノ「ナイフ」ヲ以テ剃去シ後清水ニテ充分洗滌スル時ハ清淨ナル裸体トナル

五、内臟除去

裸出セル豚体ハ再ビ前ノ如ク倒コシ懸吊シ初メ腹中線ヲ陰莖ノ經路ニ沿ヒ一條ノ截痕ヲ作り陰莖ヲ引出シ陰莖頭部ヲ臍窩附着ノ儘截切シ後方ニ反轉シ置キ(牝獸ニハ斯ル必要ナシ)次ニ耻骨ノ前線ニ於テ腹中線ニ沿フテ腹壁ヲ切り下ケ胸部迄延長ス胸部ニハ鋸ヲ要ス而シテ腹胸腔ヲ切開スルナリ此際膀胱ヲ傷ケサル様注意ヒザル可カラズ次ニ耻骨縫際ヲ切斷シ陰莖附着ノ儘(牝獸ハ牝生殖器連路ノ儘)肛門ヲ割り取り腹腔内ニ押し入レ下ニ壓シツ、各内臟器連路ノ儘附近ノ關係ヲ放チ咽喉部ニ到リテ切斷採出シ後清水ニテ胸腹腔ヲ充分洗滌ス

六、脂肪除去

内臟採出後ハ腹腔内壁ニ附着セル脂肪ヲ剝離ス剝離脂肪ハ細切シテ水ヲ盛レル器ニ浸漬シ置キ毎日

其水ヲ取換ヒ清淨トナリタルヲ待チテ「ブリード」製造ニ供用ス

七、豚体切半
斯ク取扱タル豚体ハ脊柱ノ中線ニ沿ヒ鋸ヲ以テ全ク切半ス

八、放温
切半シタル豚体ハ二十四時間室内ニ懸垂シテ充分体温ヲ放散セシム室内温度ハ大約華氏三十八度位トス

以上屠殺ヨリ放温ニ至ル迄ノ操作ニ全一日ヲ要ス

九、解体及整理

各切半体ヲ眞魚板上ニ載セ左ノ如ク解体ス

(イ) 第一頸椎ト第二頸椎トノ間ヲ切斷シ頭部ヲ放ツ

(ロ) 第五肋骨ト第六肋骨トノ間ヲ切斷シ前肢ヲ切り取ル(シヨルダノ原料)

(ハ) 第四腰椎部ヲ鋸切シ一大切刀ノ下ニ後腿ヲ切り放ツ(ハムノ原料)

(ニ) 次ニ殘ル胴部上三分ノ一部ニ縦ニ刀ヲ入レ下三分ノ二ナル腹部ヲ切り取ル(メーコンノ原料)

以上ノ如ク切り取りタル各部ハ次ノ如ク整理ス

一、「シヨルダ」原料ハ腕節ノ眞上部ニ於テ「ハム」原料ハ飛節ノ眞上ニ於テ鋸切シ下部ヲ去ル

二、次ニ此等何レモ刀ヲ丸ク運バセナガラ形ヲ柏子型ニ整理シ断面決シテ凹凸不平ナカラシムメシ内

測面過分ニ垂下セル餘肉及脂肪ハ切り取ルナリ

三、「メーコン」原料ハ附着セル肋骨ヲ劍キ取ルモノアリ取ラザルモノアリ何レノ場合ト雖モ肋骨ノ附着

セザル部分ハ稍長クシテ四圍ノ不正ヲ整理シテ約長方形ニ型ル本年度ノロールメーコンハ皮ヲ劍キ

取リ昆布ヲ以テ巻クノ法ヲ採レリ

四、整理セラレタル「シヨルダ」及「ハム」ハ下部細端ニ「メーコン」ハ短キ一端ノ中央部ニ「ロールメーコン」ハ其一方端ニ何レモ其皮膚ヲ貫通シテ「カナビキ」糸ヲ通シ兩端ヲ結び付ケ輪ヲ作ル

五、右各部其重量ヲ秤量シ之ヲ記入シタル小木札ヲ附ケ置クナリ

(附)「シヨルダ」及「ハム」ハ普通合稱シテ「ハム」ト唱フルヲ以テ以下説ク所之ニ做フ

十、鹽塗

既ニ整理セラレタル「ハム」及「メーコン」ハ臺上ニ於テ次ノ割合ニ割合シタル乾鹽ヲ充分内外切断面

限ナク擦リ込ム殊ニ皮膚面ハ糸瓜ノ纖維ヲ以テ摩擦セリ

上等食鹽參百匁硝石參拾匁砂糖百匁(二頭分)

次ニ此等ヲ臺上ニ約二尺ノ高サニ皮ノ方ヲ下ニシテ積ミ重チタルモノヲ併列シ其上ニ板ヲ置キ押石生肉量一貫目ニ對シ六七百匁ノ間ニ加減シ重壓スルコト二十四時間肉中ニアル汁液ヲ充分滲出セシム既ニ二十四時間ヲ經過セバ再ビ取り出シ附着セル鹽ヲ刷ニテ出來得ル丈除出シ双手ヲ以テ血管ノ徑路ニ沿ヒ血液ヲ充分搾出シ以テ製品ノ腐敗豫防ニ務メ更ニ新シキ調合乾鹽ヲ擦リ込ミ裝置スルコト前ノ如クス此操作ヲ繰返スコト肉ノ大小ニヨリ差アレモ五日間トナセリ

十一、鹽汁調製

「ハム」及「メーコン」ノ鹽漬三日前次ノ割合ニ鹽汁ヲ調製炭沸濾過シ四斗桶ニ入レ充分冷却シ置ク比

重平均一、二ニ示セリ其割合次ノ如シ

調合品	水	食鹽	硝石	砂糖	ヒタ	イブ	丁子	肉桂	胡椒
一頭分	一斗	一貫匁	六十匁	二百五十匁	拾匁	匁	五匁	五匁	五匁

十二、鹽漬

擦リ込ミタル餘分ノ食鹽ヲ刷毛ニテ充分掃キ落シ直ニ鹽漬桶ニ皮ノ方ヲ下ニシ積ミ重キ是等ノ全ク
 沒シ尙ホ一二寸位ノ餘裕アル迄前以テ調製冷却シ置キタル鹽汁ヲ注ギ其上ニ木枠ヲ置キ浮キ上ガテ
 ザル程度ノ極ク輕キ押石ヲ載ス而シテ可成重量ノ近キモノヲ一纏トナシ重キモノト輕キモノト二種
 ニ分チ重量百二十匁ニ對シ二日ノ割合ニテ浸漬セリ此期間鹽漬ノ作用ヲ全カラシメントカ爲メ三日毎
 ニ順次積ミ換ヘテナセリ尙ホ重大ナル「ハム」ニ鹽漬中第十九日目ニ一回腿部ノ内關節部一ヶ所ニ鹽液
 注射ヲ行ヘリ其法特製ノ注射器ニ依レリ注射液ノ割合次ノ如ク一且煮沸シタルモノヲ冷却シ用ヒ
 タリ

- 注射液 水一升 食鹽 百廿匁 硝石 十六匁 砂糖 六十匁
- 十三、水洗

「ハム」及「ペーコン」ヲ鹽汁漬ヨリ引上ケ最初華氏六十五度ノ清水ニ浸漬スルコト約一時間半表面ニ附着
 セル過分ノ鹽分ヲ除去リ後華氏九十度ノ温水ニテ更ニ附着セル汚物ヲ洗ヒ落ス此際決シテ水浸ノ永
 キニ失シ肉面ヲ水「ボク」ス可カラズ次ニ乾布ヲ以テ充分水分ヲ拭ヒ取ルナリ特ニ「ペーコン」ハ之レヨ
 リ以後ノ取扱ニ於テ兩線卷クレ込ムノ憂ヒアルヲ以テ兩端ニ肉幅程ノ細キ竹串ヲ挿シ込ミ「ローレルベ
 ーコン」ニハ其一端ニ十字形竹串ヲ挿シ其内ノ一本ヲ稍長クシ吊糸ヲ附セシ又燻煙ノ爲メ木札ニ記セ
 ル數字ノ性々ニシテ不明トナルモノアルヲ以テ全部木札ニ代フルニ丸キ細キ一節ヲ殘シテ短ク切り
 タル竹筒ヲ作り其内ニ量目ヲ記入セル紙ヲ卷キ込ミ針金ヲ通シテ附着スルコトセリ

十五、燻煙

燻煙スル前二日間燻煙室ノ整理ヲナス即チ燻煙室ヲ充分開放シ掃除ヲナシ後炭火ヲ入レテ室内ヲ乾
 燥シ約華氏八十五度ノ温ヲ保タシム而シテ后「ハム」「ペーコン」ヲ燻煙室ニ懸吊ス此際相互觸レナル様
 間隔ヲ取ラシメ下ヨリ燻煙材料ハ堅木ノ鋸屑中ニ堅木ヲ挿シ入レ置キ漸次間斷ナク燻煙スル

様注意シ決シテ灰塵ヲ起タシメ火炎ヲ上ラシメ又ハ消火セシムル様ノ事アルベカラズ室内ノ温度ハ
 氣温ノ高低ニヨリ加減ヲ要スルコトナレ出來得ル限り常ニ一定ニ保タシメ急劇ノ變化ヲ防グベシ通
 常華氏九十度位トナス燻煙期間ハ其表面美麗ナル光澤アル赤褐色ヲ呈スル度ヲ見計ヒ「ペーコン」ハ
 五日乃至一週間「ハム」ハ拾日間以上燻煙シテ仕上タリ

十六、貯藏法

燻煙適度ニ至レルモノハ之ヲ室外ニ取り出シ秤量シ通氣宜シキ暗室ニ懸吊乾燥貯藏セリ長期ノ貯藏
 チナサンガ爲メニハ充分乾燥シ水分ノ滲出セザルニ至リ最初「パーチメント」紙ヲ以テ包ミ次ニ面ニ
 凹凸不平ヲ生セザル様下等ナル半紙ヲ以テ其上ヲ包ミ更ニ其上ヲ布片ヲ以テ充分堅ク「ハム」「ペーコ
 ン」ノ型ニ縫合包装シ之ニ外部ヨリ塗抹劑ヲ塗ルナリ塗抹劑ニハ赤色、白色及ビ黄色ノ三法アルモ赤色
 法ヲ用ヒタリ即チ布海苔ヲ水ニテ煮沸シ適當ノ濃度トナシ濾過シ之ニ小麦粉ヲ混和シ光明丹ヲ入レ
 攪拌シツ、色度ヲ計リ恰モ壁塗土ノ如キ濃度トナシ其温キ間ニ包裝セル製品ヲ室内ニ吊シ刷毛ニテ
 隈ナク一様ニ塗り作業ヲ終ハル

第二 鹽豚ノ製法

「ハム」及「ペーコン」ヲ切り取りタル殘餘ノ肉ヲ掌大ニ切り之ニ充分乾燥ヲ塗抹シ圓筒形ノ甕器ノ底
 ニ木枠ヲ入レ置キタルモノ、上ニ皮部ヲ下ニシテ積ミ重キ落蓋ヲ被ヒ押石ヲ載セ置クナリ然ルトキ
 ハ鹽水器底ニ溜スルガ故ニ五日目毎ニ肉ヲ取り出シ古キ鹽ヲ拂ヒ落シ更ラニ新ラシキ鹽ヲ塗り換
 フルコト三回モ繰リ返セバ其儘冷室ニ貯フ

第三 腸詰ノ製法

腸詰トハ「ハム」及「ペーコン」ヲ切り取りタル殘肉ヲ細挫レ之ニ加味品ヲ混テテ腸ニ詰メ煮或ハ蒸シ
 或ハ燻シテ製スルモノニシテ其製法ニ種類甚ダ多シト雖「ポークソーセージ」ニツキ製セシテ以テ其

嘴 黑色ニシテ尖端褐黄色トナル
 顔面 鮮紅色
 脛及趾 暗石盤色
 頸 黑色ニシテ黄褐羽ヲ雜ヘ頭部ニ至ルニ從ヒ漸次黑色トナル
 背 黑色ニシテ褐ヲ帶ブ
 胸 黄色ニシテ黒ノ覆輪アリ
 体軀及軟羽 黒ノ暗褐色ニシテ各羽ノ中央根部黄線アリ
 尾 黑色ニシテ褐ヲ帶ブ
 眼 暗黒色
 肉髯及耳朵 肉髯ハ紅色耳朵ハ帶赤白色
 性 温和
 ○カンビン九斤一代雜種(毛羽色カンビン種ニ類似ス)
 嘴 白ニ黒色ヲ帶ブ
 顔面 赤色
 脛及趾 銀藍色
 頸 白色ニシテ黒ノ覆輪アリ
 背及胸 全
 体軀及軟羽 全
 翼主翼羽 全
 尾 白色ニ黒ノ班

眼 暗栗色
 肉髯及耳朵 肉髯紅色耳朵白色
 ○褐色レグホーン九斤一代雜種
 嘴 白色
 顔面 赤色
 脛及趾 石竹色
 頸 黄色ニシテ尖端ニ黒点アリ
 背 全
 胸 黄色ニシテ銚色ヲ呈ス
 体軀及軟羽 黄色ニシテ腹部ニ至リ漸次薄黄色トナル
 翼主翼羽 黄褐色ニシテ黒点アリ
 尾 褐色ニシテ黒ノ條線アリ
 眼 茶褐色
 肉髯及耳朵 肉髯 赤耳朵 赤ニ白ヲ交ユ
 一、供用鶏ハ各種共大正三年六月二日ノ孵化ニシテ其初産卵ノ月日及孵化后産卵迄ノ日數次ノ如シ
 初産卵月日及孵化后初産ニ至ル日數

種	類	別	初産	月	日	孵化	ヨリ初産ニ至ル日數
黒色	ミノルカ	九斤一代雜種	大正四年	一月	五日	二	百五十日
褐色	レグホーン	九斤一代雜種	全	一月	七日	二	百七十日
カンビン	九斤	一代雜種	全	一月	十三日	二	百二十三日

初産ヨリ大正四年三月卅一日ニ至ル各一羽ノ平均産卵數ヲ調査セバ次ノ如シ

一代雜種鶏初卵期産卵調

種	類	別	産	卵	數
黒色	ミノルカ	九斤一代雜種(二年鶏)			五六六
褐色	レグホーン	九斤一代雜種(全)			四二八
カンビン	九斤	一代雜種(全)			

自大正四年四月一日一ケ年間ニ於ケル各雜種鶏ノ産卵數次ノ如シ

日別	種	類	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月
一日	黒色	ミノルカ	一七〇	一四〇	一四〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇
一日	褐色	レグホーン	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇
一日	カンビン	九斤	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇	一三〇
二日	上													
三日	上													
四日	上													
五日	上													
六日	上													
全														

日別	種	類	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月
七日	上													
八日	上													
九日	上													
十日	上													
十一日	上													
十二日	上													
十三日	上													
十四日	上													
十五日	上													
全														

前表試験鶏及各純粋種産卵セル卵ノ重量次ノ如シ

計 ケ 年 産 卵 數	卅一日	三十日	廿九日	廿八日	廿七日	廿六日	廿五日
	全	全	全	全	全	全	全
褐色ミノルカ雑種 カンピソ雑種	上	上	上	上	上	上	上
黒色ミノルカ雑種 カンピソ雑種					一三〇 一四七 一五〇	一三三 一四一	一三二 一四〇
一羽平均産卵數	一三三	一三〇	一四一	一四四	一四四	一四四	一三二 一三六 一三五
褐色ミノルカ雑種 カンピソ雑種							一四七 一七〇
黒色ミノルカ雑種 カンピソ雑種							一三〇
一羽平均産卵數	一三五	一三二	一四一	一四五	一四五	一四五	一四四
褐色ミノルカ雑種 カンピソ雑種							一三〇
黒色ミノルカ雑種 カンピソ雑種							一三五 一七〇
一羽平均産卵數	一三五	一三二	一四一	一四五	一四五	一四五	一四四
褐色ミノルカ雑種 カンピソ雑種							一三〇
黒色ミノルカ雑種 カンピソ雑種							一三五 一七〇
一羽平均産卵數	一三五	一三二	一四一	一四五	一四五	一四五	一四四

日別	種	類	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月
廿四日	全	上	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二
廿三日	全	上	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二
廿二日	全	上	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二
廿一日	全	上	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二
二十日	全	上	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二
十九日	全	上	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二
十八日	全	上	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二
十七日	全	上	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二
十六日	全	上	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二
十五日	全	上	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二
十四日	全	上	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二
十三日	全	上	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二
十二日	全	上	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二
十一日	全	上	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二
十日	全	上	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二
九日	全	上	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二
八日	全	上	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二
七日	全	上	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二
六日	全	上	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二
五日	全	上	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二
四日	全	上	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二
三日	全	上	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二
二日	全	上	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二
一日	全	上	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二	二二二

試驗鶏産卵重量調

種	類	初卵重量	産卵后三ヶ月	全上六ヶ月	全上一ヶ年
黒色ミノルカ九斤一代雜種	一六〇	一七〇	一七五	一八五	一八五
褐色レグホーン九斤一代雜種	一三〇	一四〇	一五〇	一六〇	一六〇
カンビン九斤一代雜種	一三〇	一四〇	一五〇	一六〇	一六〇
黒色レグホーン九斤一代雜種	一五〇	一六〇	一七〇	一八〇	一八〇
褐色レグホーン九斤一代雜種	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

前表ニ依レバ一代雜種中黒色ミノルカ九斤一代雜種ハ一羽一ヶ年間ノ平均百八十個全褐色レグホーン九斤一代雜種ハ百七個全カンビン九斤一代雜種ハ百六十一個ヲ産卵セリ而シテ一代雜種鶏ノ産卵ト各其純粹種ノ一ヶ年間産卵數並ニ産卵重量トナ比較セバ次ノ如シ(純粹種ノ産卵數ハ前年度ノ調査ニ據ル)

産卵比較表

種	類	一ヶ年間ノ産卵數	平均産卵一個ノ重量	一ヶ年間一羽ノ産卵總重量
黒色レグホーン九斤	一七二	一七三	一七三	二九七
褐色レグホーン九斤	一六五	一三五	一三五	二二八
カンビン九斤	一七四	一三三	一三三	二三四
黒色ミノルカ九斤一代雜種	一〇八	一三九	一三九	一五〇
褐色レグホーン九斤一代雜種	一八〇	一七三	一七三	一五九
カンビン九斤一代雜種	一〇七	一四九	一四九	一五九
黒色レグホーン九斤一代雜種	一六二	一四四	一四四	二三八

本場飼養ノ成績ニ依レバ在來鶏種タル九斤(本縣下多數ノ在來鶏)ニ採卵用純粹鶏種ヲ交配シタル一代雜種ハ體質強健ニシテ發育良好体重中等以上ニシテ管理シ易ク其産卵力ニ至リテハ前表ノ如ク黒色ミノルカ、九斤雜種ハ九斤種ノ二倍以上カビン、九斤雜種ハ一倍半以上ノ増收ヲ示シ殊ニ黒色ミノルカ、九斤雜種ハ採卵用純粹黒色ミノルカ種以上ノ良成績ヲ示セリ
前表ノ如ク本年度ニ於ケル一代雜種試験ノ成績良好ナリシヲ以テ更ニ黒色ミノルカ、九斤一代雜種雌鶏ニ純粹黒色ミノルカ種雄鶏ヲ配シタル二回雜種ヲ造リ本試験ヲ繼續ストト全時ニ更ニ進メテ全二回雜種ノ試験ヲ行ハントス其本年度内ノ成績次ノ如シ

供用鶏

黒色ミノルカ、九斤二回雜種雌四羽(純粹黒色ミノルカ種ニ酷似ス)
本鶏形狀羽毛並ニ性質其他次ノ如シ

- 嘴 黒色 顔面 鮮紅色 脛及趾 暗石盤色 羽毛 黒色
- 黒色ミノルカ、九斤二代雜種雄
- 嘴 黒色 顔面 鮮紅色 脛及趾 暗石盤色 羽毛 黒色
- 色ノ縦班アリ尖端ニ至リテ消ユ
- 背 鮮赤色ニシテ鞍羽ハ中央ニ黒色縦班アリ共ニ尖端ニ至リテ消ユ
- 胸 黄色ニシテ黒ノ覆輪アリ
- 体軀及軟羽 黒ノ暗褐色ニシテ各羽ノ中央根部ニ黄線アリ
- 尾 黒色
- 眼 暗黒色
- 肉髯及耳朵 肉髯ハ紅色、耳朵ハ白ニ赤交ユ

前表ニ據レバ一代雜種ノ成績良好ナルガ如キモ二回雜種ノ産卵期ガ一代雜種ニ比シ約十日間遅延セルニ依リ觀レハ未ダ俄カニ優劣ヲ斷スベカラズ翌年度ニ於ケル成績ニ依リ判定セントス

雜種試驗ノ成績ト實利養鶏業普及上ノ期待

養鶏業ノ發達ヲ計ラシカ爲メ優等鶏種ノ普及ヲ講ズルハ夙ニ識者ノ唱道スル處ニシテ本場亦其適切ナルヲ感スルガ故ニ其地方ニ適切ナル種類ヲ選定シ種雛ニ種卵ノ配布ヲ實行セル茲ニ歳アリ、今ヤ斯業ノ穩健ナル發達ヲ觀ントスルニ至リタルハ洵ニ喜ブベシト雖ヒ斯業普及上今尙隔靴搔痒ノ感ナキ能ハズ曰ク一般農家ノ養鶏技術ノ幼稚ナルコト曰ク優異種鶏配布希望ノ一部ヲモ充シ能ハザルコト等其主タルモノトス故ニ本場ニ於テハ此缺陷ヲ補足シ地方ニ適切ナル副業養鶏ノ普及ヲ速ナラシメンガ爲メ雜種試驗ヲ實施シタルモノニシテ其成績ハ己ニ前項ニ於テ發表セルガ如ク良好ナリト雖ヒ尙ホ進ンデ試験ヲ繼續シ確實ナル結論ヲ得ントス若シ本試驗ニシテ所期ノ目的ヲ達スルヲ得バ次ノ方法ニ依リ實利副業養鶏ノ普及ヲ期スルコトヲ得ベシ但シ前述成績住良ナル一代雜種ノ蕃殖ニ止ムルカ又ハ累進雜種法ニ依ルカハ本場試驗ノ結果ニ待タザルベカラズ

- 一、幼穉ナル養鶏地方ニ於テ多數ニ飼養セル九斤十羽ノ雌ニ黑色ミノルカ雄一羽ノ割合ヲ以テ交配セバ春秋二期ニ於テハ一代雜種トナルベキ種卵約五百顆ヲ得ベシ之レガ爲メニ要スル費用ハ黑色ミノルカ種鶏一羽ノ購入ニ約金一圓以上一圓五拾錢ヲ支出スルノ外他ニ費用ヲ要セズ
- 一、斯クシテ五百顆ノ一代雜種卵ヲ孵化シテ四百羽ノ一代雜種鶏ヲ得ルト仮定シ雌雄半數トセバ二百羽ノ雌鶏ヲ得一戸四羽(雌)ノ養鶏ヲナス農家五十戸ニ配布スルヲ得ベシ而シテ其一代雜種鶏ノ産卵數ハ本場試驗ニ依リ純粋ミノルカ種ニ異ナラズ

- 一、前項一代雜種雌鶏ハ二年鶏、三年鶏ノ兩年ニ涉リ産卵セシメ四年目春期ノ産卵期ヲ終レバ肥臘シテ全部肉鶏ニ賣却スヘシ而シテ此一代雜種雌ノ二、三年鶏時代ニ於テ更ニ他系統ノ純粋黑色ミノルカ種雄鶏(交換又ハ購入)ヲ交配シテ九斤、ミノルカ二回雜種々卵ヲ收メ之ヲ孵化シテ二回雜種鶏ヲ育テ賣却セル一代雜種雌ノ後繼トナスベシ此場合ニ於テ近親ノ關係ナキ種鶏黑色ミノルカ種ヲ用ユルニ勉ムルハ極メテ必要ナラシテ他ト交換スルヲ便利ナリトス
- 一、前項二回雜種雌ハ二年鶏、三年鶏ノ兩年ニ涉リ産卵セシメ四年目春期産卵ヲ終レバ肥臘シテ全部肉鶏ニ賣却スベシ而シテ二回雜種雌ノ二、三年鶏時代ニ於テ更ニ他系統(近親蕃殖ヲ避クルガ爲メ)ノ純粋黑色ミノルカ種雄鶏(交換又ハ購入)ヲ交配シテ九斤ミノルカ三回雜種々卵ヲ收メ孵化シテ三回雜種雌ヲ育テ賣却セル二回雜種ノ後繼トナスベシ
- 一、以降前例ノ方法ニ依ル但シ種鶏タル黑色ミノルカノ種雌ハ常ニ産卵力ノ強キ系統ノモノヲ選抜スルヲ要ス

以上採卵飼養期間、肉鶏賣却時季、同種他系統種雌ノ撰定等其法ヲ誤ラザレバ比較的出費少クシテ收利多キ實利養鶏ヲ營ムコトヲ得シカ何トナレバ雌鶏ハ常ニ自家生産ノモノヲ基礎トシ種雌ノ交換又ハ購入ニ支出ヲ要スルノミナレバナリ而シテ産卵能力ノ進歩維持ニ對シテハ本場試驗ノ成績ニ待タザルベカラズト雖モ乳牛ノ累進的雜種改良上ニ實現スル事實ヨリ考察セバ累進的雜種雌ノ産卵能力ハ決シテ減退スルモノニ非ザルベシ
前法ノ實施ニ依リ地方ノ必要ニ應ジ急速ナル養鶏業ノ普及ヲ圖リ得ルノ利益アルノミナラズ幼穉ナル養鶏地方ニ於テ常ニ認ムル近親蕃殖ニ依ル純粋種雌並ニ雜駁ナル種雌ノ蕃殖増加セルニ比シ寧ロ其利益ノ大ナルモノアラシカ簡易ナル人工孵卵法ノ研究ハ養鶏急速普及上必要ナルヲ以テ本場ニ於テハ本試驗ノ實施ト同時ニ既肥醱酵孵卵育雛法ノ試験ヲ實施中ナリ

右ノ飼料ヲ温渣乳ニテ捏リ約徑三分長一、二寸ノ棒狀トナシ一日三回嚙ヲ開キ口中へ押込ニ與ヘタ
リ其分量ハ初メ數本ヨリ漸次増量シ七、八本ニ達ス但シ飲水ハ毎日新鮮ナルモノヲ箱前ノ給水器ニ容
レ自由ニ飲用セシメタリ

乙鶏飼料ノ配合ハ甲鶏ニ同ク

調理給與法ハ飼料ヲ温渣乳ニテ捏リ採食スルニ任ジ給與セリ給水法甲鶏ニ同ク
飼料給與

一、甲乙兩鶏各三羽ニ對スル飼料ヲ兩區ニ同分量ニ區別シ置キ甲區鶏ノ配當飼料ハ甲鶏ノミニ強制
法ニ依リ與ヘ乙區鶏ノ配當飼料ハ乙鶏ノミニ任意飽食セシメテ給與シ試驗終了後ニ於テ兩區配當
飼料ノ殘量ヲ調査シ以テ各區ニ使用シタル飼料ノ數量並ニ價額ヲ調査セリ

一、甲乙兩鶏配當飼料次ノ如シ

蕎麥粉	一斗	甲	乙
米糠	一斗	全	全
數	五升	全	全
小麥粉	五升	計	計
	三斗		

前記肥臘飼料ノ外兩鶏共ニ野菜ヲ肥臘箱前ノ飼料箱ニ容レ給與セリ
飼料ノ計算 毎日甲、乙兩試驗鶏ニ使用給與セシ各飼料量ヲ調査セルモノ左表ノ如シ

肥臘飼料給與日量表

月	日	氣象ト氣温	飼料	飼料	飼料	飼料
十二月	廿四	全曇	九〇	一五	七〇	一五
	廿三	全曇	九〇	一五	七〇	一五
	廿二	全曇	九〇	一五	七〇	一五
	廿一	全曇	九〇	一五	七〇	一五
	廿	全曇	九〇	一五	七〇	一五
	十九	全曇	九〇	一五	七〇	一五
	十八	全曇	九〇	一五	七〇	一五
	十七	全曇	九〇	一五	七〇	一五
	十六	全曇	九〇	一五	七〇	一五
	十五	全曇	九〇	一五	七〇	一五
	十四	全曇	九〇	一五	七〇	一五
	十三	全曇	九〇	一五	七〇	一五
	十二	全曇	九〇	一五	七〇	一五
	十一	全曇	九〇	一五	七〇	一五
	十	全曇	九〇	一五	七〇	一五
	九	全曇	九〇	一五	七〇	一五
	八	全曇	九〇	一五	七〇	一五
	七	全曇	九〇	一五	七〇	一五
	六	全曇	九〇	一五	七〇	一五
	五	全曇	九〇	一五	七〇	一五
	四	全曇	九〇	一五	七〇	一五
	三	全曇	九〇	一五	七〇	一五
	二	全曇	九〇	一五	七〇	一五
	一	全曇	九〇	一五	七〇	一五

全	廿五日	全	五	九〇	五	五	五	五
全	廿六日	晴	五	九〇	五	五	五	五
全	廿七日	全	五	九〇	五	五	五	五
計								

本肥臘飼料一合ノ價額ハ五厘五毛コシテ甲(強制肥臘)鶏三羽ニ給與シタル二十七日間ノ飼料ハ二斗一升四合コシテ此ノ價格壹圓拾七錢七厘乙(任意飼料)鶏三羽ニ給與シタル廿七日間ノ飼料ハ一斗四升八合コシテ此價格金八拾壹錢四厘ナリ又蔬菜ハ甲鶏三羽ニ貳百三十匁價額七厘乙鶏三羽ニ九百六十匁價額貳錢九厘ヲ給與セリ即チ給與シタル飼料ノ總價額ハ甲鶏三羽ニ金壹圓拾八錢四厘乙鶏三羽ニ金八拾四錢三厘ヲ要シタリ

休量增加量ヲ測定セルモノ左表ノ如シ

體重增量測定比較表

種類	區別	試驗前休重	第一回休重測定五日目	第二回全十日	第三回全十五日	第四回全二十日	第五回全二十五日	第六回全廿八日
九斤刺鶏	甲	六六〇	六九〇	九〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
	全	七三〇	七七〇	八〇〇	八二〇	八三〇	八四〇	八五〇
	計	一三九〇	一四六〇	一七〇〇	一八二〇	一八三〇	一八四〇	一八五〇
九斤刺鶏	乙	七六〇	八二〇	八六〇	九一〇	九一〇	九一〇	九一〇
	全	八二〇	八六〇	八六〇	八六〇	八六〇	八六〇	八六〇
	計	一五八〇	一六八〇	一七二〇	一七七〇	一七七〇	一七七〇	一七七〇
計		一三九〇	一三九〇	一三九〇	一三九〇	一三九〇	一三九〇	一三九〇

前表ニ據レバ廿七日間ニ於テ甲試驗鶏ハ三羽ニテ七百匁ヲ增量シ乙試驗鶏ハ全三羽ニテ二百十匁ヲ增加セシノミ本成績ニ依レバ鶏ノ肥臘ハ強制法ニ依ルチ利益ナリトス但本試驗ニ於テ甲、乙兩鶏ニ給與スベキ蔬菜量ヲ同一ナラシメザリシテ遺憾トス

收支對照比較表

種別	肥臘前ノ休量	全上價額	肥臘后ノ休量	全上價額	一羽平均飼料費(一羽)	試驗中ノ飼料費	差引損益
甲一	六六〇	六六〇	一三〇〇	一三六〇	一	一	一
甲二	七三〇	七三〇	一〇一〇	一五一一	一	一	一
甲三	五二〇	五二〇	六六〇	一〇〇〇	一	一	一
計	一三九〇	一三九〇	一三九〇	一三九〇	一	一	一
乙一	七六〇	七六〇	九一〇	一三六五	一	一	一
乙二	八二〇	八二〇	七五〇	一三二五	一	一	一
乙三	六六〇	六六〇	七七〇	一〇〇五	一	一	一
計	二二四〇	二二四〇	二四三〇	三六九五	一	一	一

備考 肥臘前ノ價額ハ休量百匁ニ付キ金八錢肥臘後ハ休量百匁ニ付キ金拾五錢トシテ(松江市ニ於ケル取引價額)計算ス本表ニ依レバ肥臘期中増肉量百匁ニ對シ甲強制肥臘飼料費ハ金拾六錢九厘乙任意飼料給與鶏ハ金四拾錢壹厘ヲ要シタリ

本試驗成績ニ據レバ強制肥臘ヲ施シタルモノハ廿七日間ニ於テ肥臘鶏三羽ニ對シ金壹圓參拾參錢六厘ノ純益ヲ得任意飼料給與法ニ依リ肥臘ヲ施シタルモノハ同期間ニ於テ肥臘鶏三羽ニ對シ金九拾五錢六厘ノ純益ヲ得タリト雖モ肥臘增量百匁ニ對シタル飼料費ハ乙鶏ハ甲鶏ノ倍額以上ヲ要シタリ以テ任意採食肥臘ニ比シ強制肥臘ノ利益多キヲ知ルコトヲ得ベシ

計	割	1.5	100%	5.115	1.66	7.000	1.800	益 五九〇 一羽平均 三九三	横座アリマスロウダ 名古屋コーケン スコウチケン 九斤	全全全割 三三二七
平均	平均	1.94								

前二表ニ就キ考察スルニ強制法ノ任意採食法ニ優レルヲ見ルベシト雖も鶏ノ体量百斤ヲ増加スルニ要シタル飼料費ハ強制法ニ於テ雞鶏最モ少ク其最モ少カルヘキ割鶏ノ最モ多キヲ要シタルヲ見ルベシ之レ肥臘雞種類ノ差異ニ基因スルモノニシテ其純益ノ少キハ六羽ノ割鶏中其半數ヲ占ムル四十三年度中ノ割鶏百斤價額ヲ十二錢ニ積算セルニ因ル摘要欄ニ記入セル種類ヲ觀察セバ其然ルベキヲ了解スルヲ得ベシ而シテ收利ヲ目的トスル鶏ノ肥臘ハ強制法ニ依リ肉用種又ハ卵肉兼用種中幹格ノ大ナル割鶏ヲ供用スルヲ最モ有利ナリトス

(六) 厩肥調製試験

本試験ハ荒肥厩肥ニ適當ナル調製法ヲ施シ熟肥トナレル場合ニ於ケル生産歩合ヲ試験セントスルコトナリ

(イ) 方法

厩舎ニ生産セル牛糞及尿ニ汚染セル臥糞ヲ毎朝掃除ノ際秤量シテ堆肥舎ニ運ビ牛尿ヲ撒布シテ堆積シタル堆肥ニ就キ毎週一回ノ切返シヲ行ヒ三回ニ至テ止ム毎回切返ノ際ハ汚水及牛尿ヲ撒布シ適當ナル温氣ヲ與ヘタリ

試験期間 本試験ハ大正四年ノ初夏六月廿日ニ始メ同七月十八日終了此期間廿八日間トス

荒肥厩肥量及加水量牛糞及糞尿汚染臥糞荒肥五百貫匁牛尿六十貫匁汚水三十貫匁合計五百九十貫匁試験作業 大正四年六月廿日厩肥五百貫匁汚水三十貫匁ヲ撒布シテ角形ニ堆積ス

一、全六月廿六日牛尿廿四貫匁ヲ撒布シツ、上層及外層ヲ内部ニ入レ内部ヲ外ニ出スガ如ク第一回ノ切返ヲ行フ

一、全月三日牛尿拾六貫匁ヲ撒布シテ第二回ノ切返ヲ行フ

一、全七月十日牛尿二十貫匁ヲ撒布シテ第三回ノ切返ヲ行フ

一、全七月十八日腐熟厩肥ノ秤量検査ヲ行ヒテ本試験ヲ終了セリ

(ロ) 腐熟厩肥ノ生産量ト其歩合

原料品目	重 量	生 産 熟 肥	原料ニ對スル熟肥生産歩合	厩肥ニ對スル全上生産歩合
厩 肥(牛)	500,000	123,100		56.6%
牛 尿	60,000	1		
汚 水	30,000	1		
計	590,000	123,100	48%	

本試験ニ依リ生産セル熟肥ハ品質甚ダ良好ニシテ全質平等ニ腐熟セリ而シテ仕上量ハ荒肥原量ニ對シ熟肥量五割六歩六厘總原料重量ニ對シ熟肥量四割八歩ニ相當セリ

(七) 路傍牧草收穫試験

本試験ハ路傍兩側ニ萱科禾本科ニ屬スル各種ノ牧草種子ヲ撒布シ自然ノ發育ニ放任シ置キタル牧草收穫量ヲ調査セントスルコトナリ

收穫成績表

1421
95/

土地(距離一町) 反 別 播種栽培 第一回收穫量 第三回收穫量 生草量計 一反歩換算收穫量

本場路傍斜面共 各側四尺八寸巾	二二六	自然發生	一八〇	一〇五	六七	三七一	一、二一〇
--------------------	-----	------	-----	-----	----	-----	-------

前表ニ依レバ約二畝歩ニ相當スル路傍ノ土地面積ヨリ約三百七十餘貫匁ノ牧生草ヲ收穫シ一反歩換算收穫量千九百二十貫ニシテ之レ約五町ノ距離ヨリ收穫セル生草量ナリトス即ハチ長サ五町ノ距離ニシテ約一反歩ノ面積ヲ有スル路傍ノ自然發生牧草ノ收穫量ハ一ケ年三回刈取ニテ約二千貫匁ノ生草ヲ得ベシ千貫匁ニ付金十圓トスルモ距離五町ノ路傍ヨリ一ケ年間ニ金二十圓距離一町ノ路傍ヨリ金四圓ノ買美生草ヲ得ルノ計算トナル道路ニ障碍ナキ程度ニ於ケル路傍及堤塘ノ利用壹忽コスベケンヤ本試験ハ更ニ繼續實施セントス

終